

当ノ書ノ相当ノ報酬ヲ求ムルノ請於推ヲ有ス
第五百九十六條ノ成規ニ之ヲ準用ス
第九百十條 若シ贈遺收受者ノ負担セル責
務ニ関シテ遺囑執行者カ指名セラレタル時ニ
第九百八十九條乃至第九百九條ノ成規ヲ
準用ス

第七節 末期意思処分ノ作成

第九百十一條 末期意思処分ノ作成ニ
遺産者本人ノ陳述ニ因リテノミ里成スル了ヲ
得

第九百十二條 行爲能力ヲ制限セラレタル
人ニ滿十六歳ヲ越ヘタルニ非サル間ニ法律上
代理人ノ同意ヲ得ルト雖モ末期意思処分ヲ
作成スル了ヲ得ス

行爲能力ヲ制限セラレタルモ滿十六歳ヲ越ヘ
タル人ニ法律上代理人ノ同意ヲ得ルモ至ト雖
モ末期意思処分ヲ作成スル了ヲ得
第九百十三條 二人以上ノ人ニ末期意思処
分ヲ共同シテ作成スル了ヲ得ス

第九百十四條 末期意思処分ニ法律カ別段

ノ規定ヲ設ケタルニ非カレ限リ、単ニ裁判所
又ハ公証人ノ方式ニ於テノミ之ヲ作成スル
ヲ得通常遺囑方式)

提示

施行規則ニ於テハ、右邦法律ハ、判事又ハ公証
人ニ於テハ、同時ニ非スヲ遺囑作成ヨリ推定
スルヲ得可シトノ規定ヲ掲ク可レ
第千九百十五條 裁判所ノ方式ニ於テスル未
期意思如何ノ作成ハ、判事ノ前ニ於テ果成ス判
事ハ作成ノ際裁判所書記一人又ハ証人二人ヲ

之會ハシムルヲ得ス証人二人ニ換ヘ此ノ如
キ之會ハ、皆メ證書作成人トシテ任セラレタル
者ヲ互會ハシムルヲ得可シトスルノ規定ヲ
設ケルハ、之ヲ右邦法律ハ、留保ス

公証人ノ方式ニ於テスル末期意思如何ノ作成
ノ際ニハ、審議スル公証人ハ、第一ノ公証人又ハ
証人二人ヲ互會ハシムルヲ得ス

第一項及ヒ第二項ニ適準シテ之會ハシメラレ
タル人等ハ、之ヲ審議ノ時間在席スルヲ得
ス

第九百十六條 左に掲クル者ハ末期意思如
分ノ作成ノ際判事裁判所書記公証人証人又ハ
作成人系典人トレテ系典スル丁ヲ得

第一 遺産者ノ配偶者但婚姻ノ既ニ存在ニ

亦サレ申ト筆モ亦同レ

第二 何人タリモ遺産者ト直系又ハ傍系ニ

於ケル第二度ノ親屬又ハ姻屬タル者

末期意思如分ヲ依リ供給セラレ又ハ遺囑執行

者トシテ指定セララル者並ニ被供給者又ハ指

定セラレタル遺囑執行者ト第一項第一号第二

号ニ掲ケタル關係ヲ有スル者モ亦系典ヲ准テ

セラル然レモ本條ニ依リ禁レラレタル系典ノ

場合ニ於テハ單ニ被供給者ニ與ス贈與又ハ遺

囑執行者ノ指定ノミカニ作用タリ

第九百十七條 審議スル判事又ハ公証人ト

第九百十六條第一項第一号第二号ニ掲ケタ

ル關係ノ一ヲ有スル者モ亦末期意思如分ノ作

成ノ際裁判所書記第二公証人証人又ハ証書作

成人トレテ系典スル丁ヲ得ス

右ノ外左に掲クル者ハ証人トレテ系典スル丁

ヲ得ス

第一 何人タリモ未タ滿十六歳ヲ越ハサル者

第二 何人タリモ公推喪失ノ裁判ヲ言渡サレタル者但此推判ノ喪失ニ関シ判決ニ於テ定ムラレタル時間中

第三 何人タリモ審議スル判事又ハ公証人ノ職務ニ関シ使用人又ハ補佐人タル者
左ニ掲グル者ハ末期意思如分ノ作成ノ際証人トシテ在層ハシム可ラス

第一 何人タリモ成年ト書ラサル者

第二 何人タリモ刑法ノ成規ニ依リ宣誓ヲ以テ証人トシテ訊問セラルルノ能力ヲ有セサル者

第九百十八條 通常ノ遺囑方式ニ於テスル末期意思如分ノ作成ハ左ノ方法即チ遺産者ハ喪失スル人等ノ前ニ於テ如分ヲ口頭ニシテ陳述スルノ方法又ハ遺産者ハ其如分ヲ包含スル書面ヲ審議スル判事又ハ公証人ニ書面中如分ヲ包含スル旨ノ口頭上陳述ヲ以テ交付スル方法

ニ於テ里成ス交付シタル書面ニ遺産者ニ非カ
ルヒノ人ニ於テ記載シタルモノナルコトヲ得又
其書面ニ封緘又ニ封緘シテ之ヲ交付スルコ
ト得

第九百十九條 末期意思如何ノ作成ニ付テ
ノ筆記ニ獨逸語ニ記載スルコトヲ得ス
筆記ニ左ノ事項ヲ包含スルコトヲ得ス

第一 審議ノ地及ヒ日

第二 末期意思如何ノ作成ニ參與シタル人
ノ名

第三 參與スル人ノ參與シタル資格ノ明示

第四 遺産者ノ名

第五 第九百十八條ニ掲ケタル遺産者ノ

住所及ヒ書面ノ交付ノ場合ニ於テハ書面

ヲ交付シタル可キコトノ明示

筆記ハ初読シ並ニ遺産者ニ於テ認諾シ且自筆

ノ署名ヲ爲スコトヲ得又初読認諾及ヒ署名ハ筆

記ニ於テモ亦之ヲ確定スルコトヲ得又筆記ハ遺

産者ノ求めニ依リ之ニ通函ノ爲メ呈示ス可シ

筆記ハ終結ノ際參與スル總旨ニ於テ之ニ署名

スルコトヲ要ス

第九百二十條 若シ遺産者カ文字ヲ書スル
コト能ハスト陸述スル中ハ第九百十九條等ニ
項ノ成規ニ依リ以テ要ナル署名ハ此陸述ヲ筆記
ニテ確定スルニ依リ代補セラル

第九百二十一條 若シ遺産者カ審議スル判
事又ハ公証人ノ信證ニ依リ啞ナル中又ハ言語
ヲ用テラレタル中ハ遺産者ハ末期意思如ク
単ニ書面ノ交付ニ依リテ之ニ作成スルコトヲ得
第九百十八條ノ成規ニ依リ以テ要ナル口頭上

陸述ハ此ノ如キ場合ニ在テハ參照スル終首ノ
目前ニ於テ遺産者ノ記載スル陸述即ケ交付ス
ル書面ハ末期意思如ク之ニ包含スル旨ノ陸述ニ
依リテ代補セラル此記載ハ筆記ニ於テ又ハ筆
記ニ附録トシテ轉付セラレ及ヒ附録トシテ筆
記ニ記載セラル可キ書面ニ於テ果成スルコトヲ
要ス此事實並ニ本條ノ冒頭ニ掲ケタル判事又
ハ公証人ノ信證モル筆記ニ於テ確定スルコトヲ
要ス但遺産者カ此筆記ヲ尚未持テ認諾ス可キ
コトヲ要セス

第九百二十二條 何人タリニ記載シタルモ
ノヲ読ムヲ能ハサル者ハ末期意思ハ分ク卑ニ
口頭上陳述ニ依リテノミ里成スルヲ得
第九百二十三條 若シ遺産者カ自己ノ陳述
ヲ独逸語ニテ爲スヲ能ハサルハ末期意思ハ
分ノ作成ノ際宣誓シタル通詞ヲ立會ハシムル
丁ヲ毎ス通詞ニ証人ノ爲メ現行ノ第九百
十五條第三項及ヒ第九百十六條第九百十
七條ノ成規ヲ準用ス
通詞ハ遺産者ノ陳述スル言語ニ於テ自己ノ作

成ス可キ翻譯ニテ筆記ヲ朗読スルヲ得スル
翻譯ハ筆記ニ附録トシテ添附シ且附録トシテ
筆記ニ記載スル丁ヲ毎スル此筆記ハ在外尚ホ
遺産者ノ陳述即チ遺産者ノ独逸語ヲ解スル能
ハサル丁ノ陳述ニ會ハレトラレタル通詞ノ名
及ヒ通詞ハ翻譯ヲ作成レ及ヒ朗読シタル丁ノ
明テヲ包含スル丁ヲ毎スル又此筆記ハ通詞及ヒ
其他ノ卷与スル者ノ署名ヲ爲ス丁ヲ毎ス
若シ巻帙スル紙直カ其保險ニ依ルニ遺産者ノ
陳述スル言語ヲ解スル丁ヲ得ル中ハ通詞ノ立

會ヲ要セス其筆記ニ此ノ如キ場合ニ於テハ他
送語及ヒ他國語ニテ記載スル丁ヲ要シ及ヒ遺
産者ノ供述即チ遺產者ノ他送語ヲ解スル丁能
ハカルノ供述並ニ兼此スル送旨ノ保強即チ其
送旨ノ他國語ヲ解スル能フ可キ丁ノ保強ヲ乞
合スル丁ヲ要ス

此筆記ニハ其他尚ホ第千九百十九條第千九百
二十條ノ成規ヲ適用ス
第千九百二十四條 裁判所又ハ公証人ノ證書
ノ作成ニ關スル普通ノ成規ニ第千九百十五條

乃至第千九百二十三條ノ成規ニ依リ妨ケラレ
ズ然レモ末期意思如分ノ効力ニ此ノ如キ若邦
法律ノ成規ヲ遵守セザルニ依リ害セラレズ

提示

末期意思如分ノ作成ノ際兼此スル丁ヲ得ル
判事裁判所書記及ヒ公証人ノ規定並ニ此人
等ノ地域上ノ推限ノ限定ヲ若邦法律ニ留保
セラル丁又此ノ如キ若邦法律上成規ノ毀損
ニ依リ末期意思如分ノ効力ニ關シ生スル結
果ニ付テ同一十丁ニ施行規則ノ條例ニ依

リ判牒ス可シ

第九百二十五條 若シ場合ノ情況ニ依リ尤
ノ虞懼即チ末期意思如分ヲ作成セントスル者
カ通常ノ遺囑形式ニ於テスル作成ヲ爲シ得可
キヨリ以前ニ死止ス可シトスルノ虞懼ノ生シ
タル中ニ末期意思如分ニ作成地ノ市町村長又
ハ右邦法律ニ於テ市町村ト同視スル作成地ノ
團長ノ前ニ於テ証人二人ノ立層ノ上之ヲ作
成スルヲ得第九百十五條第三項及ヒ第九
百十六條乃至第九百二十三條ノ成規ニ依

町村長又ハ團長カ審議スル判事又ハ公証人
ニ換ハルトスルノ制限ヲ以テ之ヲ制限ス
筆記ハ本條ノ冒頭ニ掲ケタル虞懼ノ確定ニ包
合スルヲ要ス此虞懼ノ生シタルニ非サル可
シトスルノ證據ニ准ヤセラル

第九百二十六條 第九百二十五條ニ照準
シテ作成シタル末期意思如分ニ若シ其作成以
來三月ノ經過シタル場合ニ於テ遺産者カ尚ホ
生存スル中ニ作成シタルニ非ヌト看做ス
此期間ノ起算及ヒ經過ハ遺産者カ尋常ノ遺囑

形式に於て末期意思如何ヲ作成スルヲ能ハシ
ル間休止ス

若シ遺産者カ此期間ノ滿了後死止シタリトス
ルノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ遺産者ノ最終
ノ報知ニ依リ尚ホ生存シタル日カ期間ノ滿了
前ノ時ニ得スルハ第一項ノ成規ハ一モ之ヲ
適用セズ

第千九百二十七條 何人タリニ疾病ノ結果ニ
於テ又ハ其他ノ非常ナル情況ノ結果ニ於テ通
常ノ遺囑形式ニ於テスル末期意思如何ノ作成

ノ不可能タリ又ハ著レク困難ナルカ如何ニ禁
鎖セラレタル市町村街路又ハ建造物内ニ居留
スル者ハ末期意思如何ヲ

第一 第千九百二十五條第一項ニ依リ定メ
ラレタル形式ニ依リ

第二 作成ノ地及ヒ日ヲ明示シテ自己ノ自

筆ニ記載シ且署名シタル書面ニ依リ

第三 証人三人ノ前ニ於テスル口頭上書面

ニ依リテ

作成スルヲ得

証人三人ノ前ニ於テスル口頭上陸述ノ場合ニ
於テハ証人ハ末期意思如何ノ作成ニ付キ筆記
ヲ依リルコトヲ要ス此筆記ハ口頭上陸述ニ依
ル末期意思如何ノ作成ニ關スル等々九百十九
條等々九百二十條及ヒ等々九百二十三條等々
項ノ成規ヲ適用シ証人ニ關スル等々
九百十六條及ヒ等々九百十七條等々二項等々一
等々二号等々三項ノ成規ヲ適用ス通詞ノ名會ニ
スル末期意思如何ノ作成ニ附キセラル
等々九百二十八條 等々九百二十七條ニ照準

レテ作成シタル末期意思如何ニハ等々九百二
十六條ノ成規ヲ準用ス
等々九百二十九條 何人タリ且内國ノ港外ニ
於テ航海中往還船舶十ニモ往還海軍ニ屬セザ
ル船舶内ニ滞在スル者ハ末期意思如何ヲ等々
九百二十七條等々一項等々二号等々三号等々二項ニ照
準レテ作成スルコトヲ得

提示

施行規則ニ於テハ現彼ニ服シ内國港外ニ存
在スル軍艦ニ滞在スル者ニ軍人遺囑ニ關ス

ル千八百七十四年五月二日帝國軍律第四十
四條ノ成規帝國法律誌第四十頁ヲ擴及スル
規定ヲ掲リ可シ其他施行規則ニ於テハ國交
際上ニ於テ帝國軍律第三十九條第三項ノ留
保ヲ今後及ヒ將來ノ各邦法律ニ擴及スル規
定ヲ掲リ可シ又施行規則ニ於テハ千八百六
十七年十一月八日ノ帝國領事規則第十六條
聯邦法律誌第三百七頁以下以下ヲ斟酌シテ
左ノ成規即チ臨時領事ニ若シ杜逆宰相ノ任
任ニ依リ遺囑作成ノ権利ヲ特ニ之ニ與ヘタ

ル中ニ限リ遺囑ヲ作成スルノ権利ヲ有ス可
シトスル成規ヲ設リ可シ千八百六十年六月
八日帝國法律第一條乃至第三條法律纂輯第
二百四十頁ニ相考スル成規ヲ本法ニ掲載又
ハ施行規則ニ於テ右邦法律ニ留保スル丁ハ
帝國軍律第三十九條第三項ト草案第千九百
十四條第千九百十五條トヲ併合シタル爲メ
必要ナリト認メス

第千九百三十條 第千九百二十九條ニ照準シ
テ作成シタル末期意思如何ニハ第千九百二十

六條ノ成規ヲ準用ス若シ第千九百二十六條ニ
掲ケタル期間ノ満了前ニ遺產者カ新航海ヲ始
ムルキハ此期間ニ新ナル航海ノ終止後全期間
ノ更ニ經過ヲ始ムル如リニ遷延セラル

第千九百三十一條 帝國ノ公使又ハ常駐領事
又ハ公使館長ヲ領事館ニ屬シ帝國駐務ニ限
スル者ハ外國ニ在リ本邦意思如分ヲ作成ノ地
及ヒ日ヲ明示シテ遺產者ノ自筆ニテ記載シ及
ヒ署名セル陳述ニ依リテ作成スルコトヲ得
其書面ハ調製ノ地及ヒ日ヲ明示シテ遺產者ノ

自筆ニテ記載シ及ヒ署名セル領受額ヲ以テ
帝國宰相ニ封納又ハ封納シテ之ヲ送致スル
コトヲ要ス此送致ト共ニ本邦意思如分ヲ作成セ
ラレタリト看做サレ可レ

末期意思如分ハ若シ遺產者カ呼戻ヲ受ケタル
後内國ニ還歸シタル時以來一年ヲ經過シ且遺
産者ノ尙ホ生存スル中ニ作成セラレタルニ非
スト者做ス第千九百二十六條第ニ項第ニ項
成規ニ之ヲ準用ス

第千九百三十二條 通常ノ遺囑方式ニ於テ又

ハ第千九百二十五條ニ照準シテ作成シタル末
期意思如何ニ付キ記載シタル証書ハ其附録及
ヒ作成ノ場合ニ於テ書面ノ交付ニ依リ記載セ
ラレタル筆記ヲ添セ審議スル判事公証人市町
村長又ハ團長ニ於テ目録ノ条典スル人並ニ
遺産者ノ目前ニ於テ取印ヲ押捺シテ封緘シ及
ヒ及ヒ判事公証人又ハ長ノ署名ヲ爲ス可キ封
緘セラレタル如何ノ明示スル表書ヲ備フ可シ
証書ハ之ヲ封緘シ及ヒ表書ヲ備ヘタル後遽延
延リ右邦法律ノ成規ニ照準シテ官ノ保管ニ付

ス可シ

第千九百三十一條ノ成規ニ依リ帝國宰相ニ送
致シタル末期意思如何ノ宰相ニ於テ遺囑証書
保管ノ告メ右邦法律ニ於テ権限ヲ有スル場合
ニ官ノ保管ノ告メ之ヲ引渡ス可シ但其保管ヲ
宰相自己ニ於テ引受リルニ非ザル場合ニ限リ
第千九百三十三條 遺産者ノ意思陳述ニ依リ
末期意思如何ノ廢罷ニハ其陳述カ單ニ廢罷ノ
ミヲ定ムル(取消)中ト爲メ末期意思如何ニ關ス
ル成規ヲ適用ス

取消カレタル末期意思如何、其取消ノ取消カ
ル、モ之レカ書ヲ回復セラル、之レ
第千九百三十四條 末期意思如何ノ取消ハ遺
産者ノ故意ニ出テ及ヒ末期意思如何ヲ廢棄ス
ルノ意思ヲ以テ遺囑証書ノ元本ヲ消滅シ又ハ
遺囑証書ニ付キ書面上意思注述ノ廢棄ノ意思
ヲ示シテ明示セラル、ヲ常習ト書セリ変更ヲ
舉行スル、示リテモ事成スルヲ得
遺囑証書ヲ消滅シ又ハ前項ニ掲ケタル方法ニ
依テ変更シタル遺産者ノ故意ニ出テ廢棄ノ意

思ヲ以テ行書ヲ書シタリト推定セラル
第千九百三十五條 官ノ保管ニ存スル遺囑証
書ノ元本ハ遺産者ノ求めニ依リ之ニ呈出ス可
シ此呈出ハ單ニ遺産者本人ニノニ事成スルヲ
テ許サレ遺産者本人ニ依リ証書ノ領受ト共ニ
末期意思如何ハ取消カレタリト看做ス
第千九百三十六條 末期意思如何ハ終日ニ至
リテ末期意思如何ヲ作成スルニ因リ單ニ後
日ノ末期意思如何ト以前ノ末期意思如何ト推
觸スルハ度ニ於テハニ廢棄セラル

後日ノ末期意思如何ニ依リ前項ニ違背シテ廢
罷セラレタル以前ノ末期意思如何ニ若シ後日
ノ末期意思如何ニ無作用ト爲ル中ニ再ヒ知力
ヲ有ス然レモ以前ノ末期意思如何ニ後日ノ末
期意思如何ニ因リテ供給セラレタル者カ贈寄
ノ得届前ニ死亡シ又ニ贈寄ヲ辭退スルモ之レ
カ當メ回復セラルル、無レ

等々九百三十七條 官ノ保管ニ付テ可ラサル
遺囑証書ノ所持人ニ相続ノ場合ヲ謝知シタル
日直々ニ遷延無ク遺產裁判所ニ遺囑証書ヲ引

渡ス可レ

官ノ保管ニ存スル遺囑証書モ又相続ノ場合ノ
後遺產裁判所ニ引渡サレ可レ遺產裁判所ニ若
シ遺囑証書ノ存在スル丁ノ自己ニ知レタル場
合ニ於テハ相続ノ場合ヲ謝知シタル後直々ニ
其証書ヲ取寄ス可レ

等々九百三十八條 遺產裁判所ニ相続ノ場合
ヲ謝知シタル後裁判所ニ存スル遺產者ノ末期
意思如何ヲ直々ニ期日ニ於テ言渡ス可レ此言
渡ノ際遺產者ノ法律上相続人及ヒ其他ノ者事

者ヲレテ此相続人及ニ當事者ノ遺産裁判所ニ
知レ且書シ得ル限リ、之ヲ立會ハシム可シ若
シ末期意思如分カ封緘セラレタル遺囑證書ニ
包含セラレタル中、其封緘、並瑕ニ付テ、現
狀ニ言渡ニ付テ作タル可キ筆記ニ於テ確定セ
ラル可シ

若シ遺囑證書カ遺産裁判所ニ非サレ此ノ裁判
所ノ官ノ保管ニ存スル中、其言渡、他ノ裁判
所ノ責ニ帰ス此裁判所ニ言渡ヲ書シタル後給
ナラ公認セシタル謄本ヲ留置シテ遺囑證書ヲ

遺産裁判所ニ引渡ス可シ末期意思如分、相続
ノ場合ノ後直々ニ言渡ス可ラストスル遺産者
ノ存亡、並作用タリ

第九百三十九條 遺産裁判所、末期意思如
分ノ言渡後其言渡ノ際現在セオカシ、若キ事者
ニ之ニ関スル末期意思如分ノ存否ヲ知ラシム
可シ

法律上ノ利益ヲ疏明スル若人、遺囑證書ヲ展
開シ及ヒ其證書ノ謄本、抜書又ハ公正書ヲ作
ルノ権利ヲ有ス

第三章 契約ニ依ル因死処分

第九百四十條 相続人設定ニ遺産者ノ取結
ス可キ契約ニ因リテモ亦果成スルコトヲ得
相続
人設定契約

契約ニ依リテ一否ナル結約者ニテモ等三者
ニテモ相続人トシテ設定セラル、コトヲ得
契約
相続人

同一ノ契約ニ於テ結約者等ノ右ニ於テ契約相
続人ヲ設定スルコトヲ得

第九百四十一條 契約ニ依ル相続人設定ニ

単ニ遺産者本人ノ陳述ニ依リテモ果成スル
コトヲ得

第九百四十二條 行爲能力ヲ制限セラレタ
ル者、法律上代理人ノ同意ヲ得ルモ復亦遺産
者タルノ資格ニ於テ相続人設定契約ヲ取結ス
ルコトヲ得ス

第九百四十三條 相続人設定契約ニ單ニ裁
判所又ハ公証人ノ前ニ於テノミ之ヲ取結フコ
トヲ得

第九百四十五條乃至第九百四十七條 第九百

十九條等々九百二十條等々九百二十三條等々
九百二十四條ノ成規ニ在リ制限即チ契約ノ作
成ニ單ニ契約者等ノ言ヨリ契約旨旨ノ口頭上
陳述ニ依リテノニ里成スルコトヲ得可シ又此諸
條ノ諸成規ニ遺產者ニ關係フ有ルニ限度ニ於
テ契約者等ノ双方ニ關係ス可シトスルノ制限
ヲ以テ之ヲ相続人設定契約ニ準用ス
等々九百四十四條 若シ相続人設定契約ノ取
結ノ際審議スル判事又ハ公証人ノ信證ニ依リ
一言十ニ契約者カ啞タリ又ハ言語スルコトヲ妨

ケラレタル中ニ此契約者ニ在リテ方法即チ此結
約者カ喪失スルニ終負及ヒ他ノ一方十ニ契約者
ノ目前ニ於テ自己ノ陳述ニ筆記ニ記載セン又
ハ筆記ニ附録トシテ附加シ及ヒ附録トシテ書
面ニ記載セラルル可キ書面ニ記載スルノ方法ニ
於テ書面上自己ノ陳述ヲ供フルコトヲ得此事實
及ヒ本條ノ冒頭ニ指ケタル裁判官又ハ公証人
ノ信證ニ依リテ筆記ニテ確定スルコトヲ得又ハ
又ハ言語スルコトヲ妨ケラレタル者カ此筆記ヲ
尚ホ認諾スルコトヲ得セズ

第千九百四十五條 相続人設定契約ノ取結ニ
付テ訥製シタル証書ニ結約者等ノ私ナニ依リ
第千九百三十二條第一項第二項ニ照準シテ封
緘シ表書ヲ滿ヘ及ヒ保管ニ付テ可レ結約者等
ハ証書ヲ封緘セシテモ亦保管ニ付セラレ可
キトテ求ムルヲ得若シ証書カ封緘シテ保管ニ
付セラレタル中ニ第千九百三十七條乃至第千
九百三十九條ノ内規ニ左ノ制限即チ若シ一方
ナル結約者ニ因レテ相続ノ場合ノ例知シタル
中ニ相続人設定契約ニ包含セル如ク即チ尚中

生存セル他ノ一方ナル結約者ノ如クハ之ヲ言
渡ス可ラス又其他ノ方法ニ於テモ當事者ニ識
知セシム可ラストスルノ制限ヲ以テ之ヲ準用
ス
第千九百四十六條 本條意思如クハ依リ相続
設定ニ因スル現行ノ諸法規ニ法律ニ依リ別段
ノ事項ノ表顯セサル限りハ契約ニ依リ相続人
設定ニ之ヲ準用ス
第千九百四十七條 若シ相続人設定契約ニ在
リテ遺産者ノ真意ノ意思カ其津途ニシタル意思

ト一致セザル中ハ第九十五條乃至第九十九條
ノ成規ヲ全範圍ニ於テ適用ス
第九百四十八條 相続人設定契約ニ遺産者
ニ於テ第九百八十三條乃至第九百八十三條
ニ照準シテ之ヲ抗弁スル丁ヲ得然レモ第三者
ノ犯ンタル詐欺ニ付テハ單ニ第九百三條第二項
ニ依リ表顕セザル制限ヲ以テ之ヲ抗弁スル
丁ヲ得第九百八十二條ノ場合ニ於テハ抗弁
ノ時カ遺産ノ場合ノ時ニ換ハルモトス
第九百八十三條ノ成規ニ配偶者ノ間又ハ婚

姻縁約者等ノ間ニ取結ヒタル相続人設定契約
ニハ第三者ハ契約相続人トシテ設定セラレド
ル公度ニ於テモ亦之ヲ適用ス
遺産者ノ認諾ニ依リ契約ニ抗弁スル丁ヲ得可
ラザルモノト爲ル
抗弁並ニ認諾ハ單ニ遺産者自己ニ依リテハ
果成スル丁ヲ得代理人殊ニ法律上代理人ニ依
ルモ復亦果成スル丁ヲ得ス若シ遺産者カ行爲
能カヲ制限セラレタル中ハ契約ノ認諾ハ誰レ
セラルモトス契約ノ抗弁ノ爲メニ法律

上代理人ノ同意ハ必要ナラズ
抗争ハ一年ノ期間内ニ果成スルコトヲ要ス此期
間ハ脅迫ニ因リテ抗争セラルル可キ場合ニ於テ
ハ脅迫ノ状況ノ止ミタル時点ヲ以テ始マリ其
他ノ理由ニ係リ抗争セラルル可キ場合ニ於テハ
遺産者カ抗争セラルル可キコトノ理由ヲ識知シタ
ル時点ヲ以テ始マリ第百六十六條ノ成規ハ之
ヲ準用ス

第千九百四十九條 遺産者ノ外第千七百八十
四條ニ掲ケタル人モ亦第千七百八十一條乃至第

千七百八十五條及ヒ第千九百四十八條第二項
ニ照準シテ相続人設定契約ヲ抗争スルコトヲ得
然レモ第百三條ノ規定ニ依リ表頭スル制限ヲ以テノ
第百三條第二項ニ依リ表頭スル制限ヲ以テノ
ミ之ヲ抗争スルコトヲ得抗争相手ハ第千七百八
十四條ニ掲ケタル人ノ方ヨリスル抗争ノ場合
ニ於テ亦遺産者カ契約ヲ取結シタル相手方十
リトス

若シ契約ヲ抗争スル遺産者ノ権利カ相続ノ場
合ノ當時ニ於テ既ニ消滅シタルハ第千七百

第十四條ニ掲ケタル人ノ第一千七百八十四條乃至
第一千七百八十五條及ヒ第一千九百四十八條第二
項ニ照準シテ契約ヲ抗爭スル権利ニ準付セラ
ル
第一千九百五十條 若シ相続人設定契約ニ於テ
締約者等ノ一人カ相続人トシテ設定セラレタ
ル場合、於テ同時ニ此相続人タル締約者ニ法
律上ノ相続権カ遺產者ニ對シテ屬スル中疑ハ
ノ存スルニ於テ、設定セラレタル相続人、其
法律上相続権ヲ放棄シタル可シト推認シ可ク

ス
第一千九百五十一條 遺產者ノ生存者間ノ推利
行爲ニ依リ自己ノ財産ニ付キ如何スル推利、
相続人設定契約ニ依リテ制限セラレ、無シ

提示

施行規則ニ於テ、相続人設定契約ノ取結後
浪費ノ爲メ遺產者ノ成年剥奪ヲ求ムル申立
ニ此ノ一方タル締約者ニ於テモ亦之ニ當ス
ルヲ得ルトスル成規ヲ掲ク可シ
第一千九百五十二條 若シ遺產者カ相続人設定

契約ノ取結後等三者ニ贈典ヲ告レタル中ニ契
約相続人ニ相続人ト告リタル時及ヒ其告リタ
タル限度ニ於テ被贈典者ニ對シテ利殖ノ呈出ヲ
要求スルコト得等々七百四十八條等三項ノ成
規ニ之ヲ準用ス利殖ノ呈出ニ係ル請求權ハ三
年ノ滿了ヲ以テ時効ニ罹ル此時効ハ遺產ノ契
約相続人ニ帰屬スル時点ヲ以テ始マル
若シ相続人設定契約ノ取結後遺產者ノ喪ハタ
シ贈典約束カ未タ履行セラレタルニ依リテ
ハ契約相続人ニ其約束ハ履行ヲ拒却スルコトヲ

得

徳義上ノ義務ニ依リ又ハ風紀上ノ斟酌ニ依リ
正者ナリトセラレ、贈典ニハ第一項及ヒ等ニ
項ノ成規ハ一之ヲ適用セズ
等々九百五十三條 相続人設定契約ニ依リ相
続人設定ノ成就スル限度ニ於テ遺產者ノ以前
ノ末期意思如何ハ廢棄セラレ以前ノ末期意思
如何ハ契約相続人カ遺產ノ帰屬前ニ死亡シ又
ハ遺產ヲ歸還スル中ニモ亦廢棄セラレタリト
看做ス遺產者カ相続人設定契約ノ後作成スル

因死処分、契約相続人、推利ヲ害スル公度ニ
限リ無効用タリ

第千九百五十四條 若シ契約相続人カ遺産者
ヨリ長生セザルニ相續人設定ニ依リ生スル
推利、契約相続人ノ相續人ニ移轉ス

第千九百五十五條 遺産者、相續人設定契約
ニ於テ契約相続人設定ノ外尙ホ末期意思処分
ニ依リ爲スルヲ得ル也、若個ノ因死処分ヲ爲
スルヲ得ルノ如キ因死処分、契約ニ於テ他ノ
一方ナル結約者ニ於テモ亦之ヲ爲スルヲ得

第千九百五十六條 相續人設定契約ニ於テ契
約相續人設定ノ外尙ホ此一方又ハ他ノ一方十
ニ結約者ノ爲シタル因死処分ニ法律ニ於テ
別段ノ事項ヲ規定シタルニ非ザル限リ、末期
意思処分ニ依リ年々之ヲ爲ス場合ノ爲メ遠用ス
ル成規ヲ準用ス

相續人設定契約ニ掲ケラレタル相續人設定ハ
疑ヒノ存スル場合ニ於テハ契約相續人ノ設定
ナリト看做サル可シ

因死処分カ贈遺ナル中ト疑ヒノ存スル中

ハ 結約者ニ於テ遺產者ノ竊束ヲ意望シタリト
推認セラル可レ第千九百五十二條ノ成規ニ贈
遺カ竊束スル此用ヲ以テ定メラレタルニ依リ
自己ノ利益ヲ受クル者ノ害メニ之ヲ準用ス
相続人設定及ヒ贈遺ニ非ザル他ノ処分ニ依リ
遺產者ハ竊束セラレ、了ス

第千九百五十七條 相続人設定契約ハ單ニ之
ヲ取結ヒタル者ノ間ニ於テ取結フ可キ契約ニ
依リテノミ廢棄セラレ、了ヲ得ル者等、一人
ノ死後相続人設定契約ハ第千四百四十四條ノ

成規ヲ害スル事アリテ後々抗爭セラレ、了ス

シ
相続人設定契約ノ依リテ廢棄セラレ、契約ハ
遺產者ニ於テ單ニ本人ノ陳述ニ依リテノミ之
ヲ取結スル了ヲ得又若シ遺產者カ行爲能力ヲ
制限セラレタル由ニ法律上代理人ノ同意無シ
トモ之ヲ取結フ了ヲ得

若シ此ノ一方ナル結約者カ父母ノ推力ノ下又
ハ後見ノ下ニ立リ、此結約者ニ関シテハ契
約ノ爲メ後見裁判所ノ認諾カ必要ナリトス

契約ニ、第九百四十三條、第九百四十四條、
第九百四十七條、或規ヲ準用ス
第九百五十八條、若シ遺產者カ相続人設定
契約ヨリ、既述ヲ留保シタル中、其既述ニ若
シ遺產者ニ於テ裁判所又ハ公証人ノ手續上
於テ其既述ヲ陳述シ裁判所又ハ公証人ノ
作リタル証書ヲ他ノ一方ナル結約者ニ交付シ
タル中、執行セラレタリトス此陳述ハ代理人
殊ニ法律上代理人ニ因リテモ復ル之ヲ果成ス
ルヲ得ス若シ遺產者カ行善能力ヲ制限セラ

レタルモ既述ノ書メ法律上代理人ノ同意ハ必
要ナルニ非ス
既述ニ之ヲ取消スルヲ得ス
第九百五十九條、若シ相續人設定契約ニ於テ
結約者ノ若自カ自己ヲ竊束スル因死処分ヲ書
シタル中、繼承人ニ結約者等ノ一人ノ処分ニ
テモ其処分ノ無効ノ場合ニ於テハ其契約ノ全
部無効ナリトス若シ此ノ如キ契約ニ於テ既述
ノ留保セラレタル中、繼承人ニ結約者等ノ一
人タリニ既述スル場合ニ於テハ契約ノ全部廢

罷セラレ又脱退ノ権利、結約者等ノ一人ノ死
止ヲ以テ消滅ス

前項ノ成規、若シ結約者等ノ別段ノ意思ノ判
然スル時ハ一モ之ヲ適用セス

第九百六十條 相續人設定契約ニ於テ契約
相續人ノ設定ト共ニ包含セラレタル因死処分
ノ廢罷ニ其処分カ第九百五十六條ノ成規
ニ依リ廢棄スルモノナリ時ハ第九百五十七
條乃至第九百五十九條ノ成規ヲ準用ス又若
シ其処分カ廢棄スルモノニ非ザル時ハ第九百九

百三十三條第九百四十九條ノ成規ヲ準用ス
契約ニ包含セラレタル廢棄スル処分ノ廢罷ニ
ハ第九百四十八條第九百四十九條ノ成規
ヲ準用ス

第九百六十一條 若シ結約者等ノ各自カ自
己ヲ廢棄スル因死処分ヲ因リテ得ンタル相續
人設定契約ニ於テ脱退ヲ留保シタル時ハ一方
ナル結約者ノ死亡後若シ他ノ一方ナル結約者
カ契約ニ依リ自己ヲ贈与セラレタルモノヲ辭
退スル時ハ其結約者ハ契約ニ包含セラレタル

契約面ノ目死如分ヲ第千九百三十三條第千九百三十四條ニ照準シ目死如分ニ依リ廢罷スルノ推利ヲ有ス

第千九百六十二條 一、第十條結約者カ他ノ一方ナル結約者ニ又、第三者ニ依リテ贈遺ヲ贈寄スル契約ハ相続人設定契約ニ關係スル金ヲ他立ノ契約トシテ之ヲ取結フヲ得贈遺契

約

贈遺契約ノ作成及ヒ廢罷ニハ相続人設定契約ニ關スル成規ヲ準用ス、其他贈遺契約ニハ相続

人設定契約ニ於テ贈遺カ竊未スル作用ヲ以テ年セラレタレ場合ニ關スル現行ノ成規ヲ準用スルコトヲ得

第千九百六十三條 贈與者ハ被贈與者ニ先立テニ死亡シ又ハ被贈與者ヨリ長生セザル可トスル設若條件付キニテ書レタレ贈與ニハ若レ契約ニ依リ單ニ贈與約束ノミノ契ヲラレタレ其ハ相続人設定契約又ハ贈遺契約ニ關スル成規ヲ適用シ又ハ若レ贈與カ轉讓ニ依リテ執行セラレタレ其ハ生存者間ノ贈與ニ關スル成

規ヲ適用ス

第四章 法律上遺產相続

第一節 法律上相続人

第九百六十四條 法律上遺產相続ニ相続ノ

場合ノ時ニ依リテ定マレ

相続ノ後ニ出生シタルモ相続ノ場合ノ當時ニ

於テ既ニ受継セラレタル者ニ相続ノ場合ノ當

時ニ於テ既ニ出生シタル可カリシハノ如クニ

相続推ヲ有ス

第九百六十五條 先リ遺產相続ノ者ハ法律

上相続人トシテ、遺產者ノ子孫カ指定セラレ

タリ第一順位

一階遠キ子孫ニ相続ノ場合ノ當時ニ於テ尚ホ

生存スル一階近キ子孫ニ依リテ遺產者ト立属

ニ書リタル限リ、其一階近キ子孫ニ依リテ遺

産相続ヲ推テラレ

遺產者ノ二人以上ノ子ニ平等ノ持分ヲ相続ス

若シ或ル子孫カ遺產者ヨリ長生シタルニ非カ

ル中、此子孫ノ子ニ同一ノ持分ニテ代承相続

ヲ爲ス(順系遺產相続)

第九百六十六條 第一順位ノ後ニ於テ遺
産者ノ父母並ニ遺産者ノ共同子孫及ヒ雙方子
孫カ遺産相続ノ爲メ法律上相続人トシテ指定
セラレタリ(第三順位)

若シ相続場合ノ當時尙未遺産者ノ両親ノ生存
スルハハ此両親ノ単独ニ及ヒ平等持分ニテ相
続ス

若シ遺産者ヨリ長生シタルニ非サルハ
此隻親ノ子孫ニ第一順位ニ於ケル相続ニ関
スル成規ニ照準シテ其代承相続ヲ爲ス

若シ遺産者ヨリ長生セサル隻親ノ子孫ノ存在
セサルハハ他ノ隻親ノ単独相続人タリ

第九百六十七條 第一及ヒ第二順位ニ於テ
數系ニ屬スル者ハ此各個ノ系ニ於テ自己ニ歸
屬スル持分ヲ收受ス右個ノ持分ニテ右別ノ
相続部分ト看做ス

第九百六十八條 第二順位ノ後ニ於テ遺
産ノ祖父母及ヒ祖父母ノ共同子孫及ヒ雙方ノ
子孫カ遺産相続ノ爲メ法律上相続人トシテ指
定セラレタリ(第三順位)

若シ相続ノ場合ノ當時ニ於テ単ニ尙ホ隻方ノ
祖父母ノミ生存スルハ此祖父母ニ単独ノ相
続人タリ尙ホ二人以上ノ生存スル隻方ノ祖父
母等ニ幾人生存スルト又父方ニ屬スルト母方
ニ屬スルトコトヲ區別スル迄リテ單独ニ及ヒ
平等持分ニテ相続ス

若シ祖父母等ノ一人タリニ遺產者ヨリ長生ス
ル者無キハ其子孫ノ内ニテ遺產者ト血屬
ノ分度ニ於テ最ニ近キ血屬タル者カ相続スル
分度ニ於テ二名以上同近ノ血屬者ハ同一ノ持

分ニテ相続ス

第九百六十九條 第三順位ノ後ニ於テ遺
產者ノ曾祖父母並ニ曾祖父母ノ共同子孫及ヒ
隻方子孫カ遺產相続ノ者メ相続人トシテ指定
セラレタリ第四順位ノ後ニ於テ遺
產者ノ其他ノ父祖並ニ其父祖ノ共同子孫及ヒ
隻方ノ子孫カ一級近キ父祖及ヒ其子孫ノ一級
遠キ父祖及ヒ其子孫ニ先行スルノ條件ヲ以テ
遺產相続ノ者メ法律上相続人トシテ指定セラ
レタリ第五順位第六順位及ヒ其他ノ順位

第九百六十八條第三項、成規、此順位
ノ若何ニ關シ之ヲ準用ス

第九百七十條 後行スル順位ノ血屬者ハ先
行スル順位ノ血屬者ノ生存スル間遺產相続ノ
者ヲ指定セラレタルニ非ス

第九百七十一條 若シ遺產者カ一方ニ配
偶者ヲ遺留シタルハ、此配偶者ハ

若シ第一順位ノ血屬者カ法律上遺產相続ヲ
為シタルハ、遺產ノ二分一ニ付キ

若シ第二順位ノ血屬者又ハ一人若クハ二人

以上ノ雙方ノ祖父母カ法律上遺產相続ヲ為
シタルハ、遺產ノ二分一ニ付キ

若シ此ノ如キ法律上相続人ノ欠缺スルハ、遺

產ノ全部ニ付キ

法律上相続人トシテ指定セラレタリ

若シ殘生スル配偶者カ遺產者ノ血屬者タル資

格ニ於テモ、法律上遺產相続ノ推利ヲ有スル

中其配偶者ハ同時ニ血屬者タル資格ニ於テ相

続ス配偶者ニ其資格ニ於テ及ヒ配偶者ニ親屬

者タル資格ニ於テ歸屬スル相續部分ニ之ヲ右

別ノ相続部分ト看做ス

若シ殊生スル配偶者カ第ニ順位ノ血屬者ト共

ニ又ニ隻方ノ祖父母ト共ニ法律上遺產相続ノ

旨メ指定セラレタル中ニ右ノ外其配偶者等カ

通常ノ使用ニ於テ有レタル家政上ノ儲蓄カ地

可ノ附屬タル目的物ヲ伴フ其配偶者ニ屬シ並

ニ婚式ノ時ノ被贈與物カ屬スルモノトニ特先

相続此特先相続ニ贈遺ニ関スル現行ノ成規

ヲ準用ス

第千九百七十二條 若シ法律上相続人カ遺產

ヲ継承シ又ニ遺產者ノ末期意思別分ニ依リ若

クニ相續推勘案ニ依リ遺產相続ヲ行ハセラシ

又ニ相續失格ノ宣告ヲ受ケタル中ニ此相続人

ハ法律上遺產相続ニ関レテハ相続ノ場合ノ前

死止レタリト看做サル可レ

第千九百七十三條 第千九百七十二條ノ場合

並ニ法律上相続人タル可カリレ者カ遺產者ヨ

リ長生シタルニ非サレ場合ニ於テハ贈遺及ヒ

原示義務ニ関レ並ニ子孫等ノ間ニ於ケル補充

義務ニ関レテハ此ノ如キ虧缺ノ結果ニ於テ遺

產相續ヲ爲ス法律上相續人ノ相續部分ノ増加
類ニ相当スル遺產ノ分割部分ニ之ヲ別段ノ相
統部分ト看做ス可シ

第千九百七十四條 此ノ相續人ノ欠缺スル場
合ニ於テハ遺產者ノ自己ノ死亡スル當時ニ於
テ隸屬スル右鄰ノ國律ニ於テ之ヲ相續ス

此國律ノ遺產ヲ辭退スルヲ得ス

國律ニ對シテハ遺產目録推ノ期間ヲ定ムルヲ
得ス又國律ノ遺產目録推ハ訴訟ニ於テ之ヲ
行使シタルニ非ス又ハ判決ニ於テ之ヲ留保シ

タルニ非サルモ之レカ爲メ陸行セラル、トモ

國律ノ遺產債權推者ニ對シ遺產ノ成立ニ付テノ
報告ヲ爲スノ義務ヲ負フ

國律ノ遺產裁判所ニ於テ此ノ相續人ノ存在シ
タルニ非サルヲ確定シタル後始メテ相續人
トシテ權利ヲ行使スルヲ得又其確定シタル
後始メテ權利ノ國律ニ對シ相續人トシテ之ヲ
行使スルヲ得

提示

施行規則ニ於テ、國庫ノ相続推シ、他人ニ
屬シ殊ニ利用スルコト得キ特推トシテ其ノ
タル右邦法律其他市町村其他ノ團體ヲ設ケ
及ヒ設ケル其者護シタル人ノ財産ニ關シ相
統推ヲ有スル右邦法律、仍ホ異動ヲ受リ
コト無シトスルノ規定ヲ設ク可シ

第二章 遺產義務部分

第九百七十五條 遺產者、自己ノ子孫及ヒ
雙親ノ右自ニシテ遺產相続ノ者、法律上相続
人トシテ指定セラレタル者又ハ遺產者、同死

ルカ、欠缺スル場合ニ於テ遺產相続ノ者、法
律上相続人トシテ指定セラレタル可カリシ者
並ニ自己ノ配偶者ニ左ノ數額即チ遺留セラレ
タルモノ、遺類カ法律上相続部分ノ遺類ノ二
分ニ充テスル數額ヲ遺留スルコト、要ス遺產
義務部分

配偶者ノ遺產義務部分、第九百七十一條第
三項ニ掲ケタル特先相続ニ擴及セズ又遺產者
ノ血屬者タル資格ニ於テ配偶者ニ屬スル相続
部分ニ擴及セズ

第千九百七十六條 遺產義務部分推定遺棄者
ノ相続人設定ニ依リ又ハ遺產相続ノ法律ニ依
リテ奉行シタル遺產相続ノ法律ニ一ニ影響
ヲ及ホサス但第千七百八十一條第千七百八十
二條第千九百四十九條ノ成規ニ之レカ當テ當
セラル、ト云レ

遺產義務部分推定、單ニ相続人ニ對シ金錢債行
爲ヲ求ムルノ請求推ノミヲ生ス

第千九百七十七條 詳細ナル規定ニテ當
レタル遺產義務部分ノ贈與ニ疑ハシキ場合ニ

於テハ之ヲ相続人設定ト看做ス可ラス

第千九百七十八條 若シ遺產義務部分推定者
カ遺產相続ノ法律ニ依ラレタル中ハ遺產義務部

分請求推定法律上相続部分ノ二分一ノ金錢債
類ノ支拂ヲ求ムル請求推ヨリ成立ス

第千九百七十九條 若シ遺產義務部分推定者
カ法律上相続部分ノ二分一以下ノ相続部分ニ

制限セラレタル中ハ遺產義務部分ノ請求推定
遺產義務部分推定者ニ遺留セラレタル相続部

分ト法律上部分ノ二分一以下ノ額ニ相當スル

遺産ノ部分ノ金銭債額ノ支拂ヲ共同相続人ニ
對シテ行ハルルノ請求推ヨリ成ル
第千九百八十條 若シ遺産義務部分推判者カ
贈遺ヲ以テ供給セラレタル場合ニ於テ遺産ヲ
辭退スルハ此推判者カ贈遺ヲ以テ供給セラ
レタルニ非ザル可カリシハ此ノ如クニ遺産義務
部分請求推判行使スル丁ヲ得若シ遺産義務部
分ヲ遺産義務部分推判者ニ於テ辭退セザルハ
ニ遺産義務部分請求推判贈遺ノ金銭債額ノ充
當スル限度ニ於テ降付セラレ

第千九百八十一條 若シ相続人タル遺産義務
部分推判者カ先嗣相続人若クニ後嗣相続人ノ
設定ニ依リ又ニ此推判者カ單ニ補充相続人ト
シテノニ設定セラレタルニ依リ又ニ遺囑執行
者ノ指定ニ依リ又ニ分配存立ニ依リ制限セラ
レタル中又ニ相続人タル遺産義務部分推判者
カ贈遺若クニ年寄義務ニ依リテ責務ヲ負担セ
シメラレ又ニ他ノ遺産義務部分推判者ニ對シ
其遺産義務部分請求推判付キ責務ヲ負担セシ
メラレタル場合ニ於テ遺産ヲ辭退スルニ於テ

ハ自己カ遺產相続ヲ辭退シタル可カリレドモ
此レニ遺產義務部分請求推ヲ行使スルコト得
然レモ其制限責務負担又ニ遺產義務部分負担
カ其辭退前迄テノ適用ヲ以テ虧缺シタル中ハ
之ヲ最初ヨリ存在シタルニ非サル可カリレドモ
、此レニ看做ス可シ

若シ遺產カ辭退セラレタルニ非サル中ハ遺產
義務部分推判者ニ法律上相続部分ノ二分一ニ
達セサル限度ニ於テハニ遺產部分請求推ヲ有
ス又遺產義務部分ノ計算ニ當リテハ辭退セラ

レタルニ非サル相続部分ニ制限セラレタルニ
非ス責務ヲ負担セシメラレタルニ非ス及ヒ負
担ヲ設定セラレタルニ非ストシテ算入ス
第49百八十二條 第49百八十一條等ニ項
ノ成規ニ若シ遺產義務部分推判者カ責務ヲ負
担セシメラレタル又ニ設若條件若クハ期間設
定ニ依リ又ニ其他ノ方法ニ於テ制限セラレタ
ル時遺ヲ以テ供給セラレタル場合ニ於テ時遺
ヲ辭退スルニ非サル中ハ左ノ制限所々遺產義
務部分推判者ニ責務負担又ニ制限ニ拘ハルモ

リシラ法律上相続部分ノ金銭債額ノ二分一ニ
充タサル限度ニ於テノ遺産義務部分請求推
ヲ有スルトスルノ制限ヨリテ之ヲ適用ス
第千九百八十三條 若シ遺産者ノ子孫ノ皆
ニ遺産義務部分ノ請求推カ創起セラレ又ニ贈
寄ノ結果ニ於テ消滅セラレタル中ニ此子孫ノ
子孫並ニ遺産者ノ父母ニ遺産義務部分請求推
ヲ有セス
第千九百八十四條 遺産義務部分ノ多寡ノ確
定ニ當リテ遺産ヲ辞退シタル者又ニ遺産者

ノ末期意思部分ニ依リ若クハ相続推抽象ニ依
リ遺産相続ヲ消滅セラレ又ニ相続失格ノ宣告
ヲ受ケタル者ハ共ニ算入セラル
第千九百八十五條 遺産義務部分ニ相続ノ場
合ノ當時ニ於ケル遺産者ノ財産ノ成立ニ依リ
テ定マル
第千九百八十六條 遺産義務部分ノ算定ニ
依リテ遺産ニ屬スル経テノ目的物及ヒ遺産ノ
経テノ義務及ヒ負担ヲ相続ノ場合ノ當時ニ於
ケル債額ニ依リテ算定額ニ合算ス可シ

此債額ハ抽出ヲ要スル限リ、遺棄者カ債額ヲ
定メタル中ト金モ評價ニ依リテ之ヲ確定ス可也
停止ノ諾若條件付ナル推判及ヒ義務ハ之ヲ第
定額外ニ置ク解除ノ諾若條件付ナル推判及ヒ
義務ハ之ヲ諾若條件無キモノトシテ其定額内
ニ入ル若シ推判ノ終止ノ依リテ繋カル解除ノ
諾若條件又ハ義務ノ依リテ繋カル停止ノ諾若
條件ノ成就シタル中ハ遺棄義務部分推判者ハ
過分ニ收受シタルモノヲ相続人ハ拮据ス可シ
若シ推判ノ依リテ繋カル停止ノ諾若條件又ハ

義務ノ停止ノ依リテ繋カル解除ノ諾若條件カ
成就シタル中ハ相続人ハ之ニ相当スル過分ニ
遺棄^{義務}部分推判者ニ支拂フ可シ第百三十
三條ノ成規ハ之ヲ準用ス
不確カナル又ハ不安全ナル推判ニハ停止ノ諾
若條件付ナル推判ニ関スル成規ヲ準用シ疑ヒ
ノ存スル義務ニハ停止ノ諾若條件付ナル義務
ニ関スル成規ヲ準用ス相続人ハ遺棄義務部分
推判者ニ對シ若シ尋常家父ノ用ニ可キ注意ヲ
要スル中ハ其要スル限度ニ於テ不確カナル推

判ノ確定ノ旨メ及ヒ不_レ在_レ十_レ推_レ判ノ_レ追_レ求ノ
旨メ_レ注_レ意_レ如_レ分_レ旨_レス_レノ_レ義_レ務_レヲ_レ自_レフ

第_レ九_レ百_レ八_レ十_レ七_レ條 若_レ遺_レ產_レ者_レノ_レ配_レ偶_レ者_レノ_レ遺

產_レ義_レ務_レ部_レ分_レヲ_レ宣_レム_レ可_レキ_レ中_レノ_レ第_レ九_レ百_レ七_レ十_レ一_レ條

ニ_レ掲_レケ_レタル_レ特_レ先_レ相_レ統_レニ_レ遺_レ產_レニ_レ屬_レス_レル_レモ_レト_レシ

テ_レ之_レヲ_レ共_レ義_レス_レ之_レニ_レ反_レシ_レテ_レ此_レ特_レ先_レ相_レ統_レニ_レ若_レシ_レ第

十_レ九_レ百_レ七_レ十_レ一_レ條_レ第_レ九_レ百_レ七_レ十_レ二_レ條_レニ_レ準_レジ_レテ

特_レ生_レス_レル_レ配_レ偶_レ者_レニ_レ屬_レス_レル_レ中_レノ_レ遺_レ產_レ者_レノ_レ父_レ又

ニ_レ母_レノ_レ遺_レ產_レ義_レ務_レ部_レ分_レヲ_レ定_レム_レル_レニ_レ方_レリ_レテ_レ遺_レ產

ニ_レ屬_レセ_レザ_レル_レモ_レノ_レ十_レリ_レト_レ看_レ做_レサ_レル_レ可_レシ

第_レ九_レ百_レ八_レ十_レ八_レ條 相_レ統_レ人_レノ_レ共_レ同_レ相_レ統_レ人_レニ_レ非

サ_レル_レ遺_レ產_レ義_レ務_レ部_レ分_レ推_レ判_レ者_レニ_レ對_レシ_レ遺_レ產_レノ_レ成_レ立_レニ

付_レキ_レ報_レ告_レヲ_レ旨_レス_レノ_レ新_レ務_レヲ_レ自_レフ_レ相_レ統_レ人_レヲ_レシ_レテ_レ此

義_レ務_レ又_レニ_レ第_レ七_レ百_レ七_レ十_レ七_レ條_レニ_レ依_レリ_レ表_レ頭_レス_レル_レ新_レ務

ヲ_レ免_レカ_レレ_レム_レル_レ遺_レ產_レ者_レノ_レ年_レ后_レ及_レヒ_レ遺_レ產_レ者_レト_レ遺

產_レ義_レ務_レ部_レ分_レ推_レ判_レ者_レト_レノ_レ間_レニ_レ於_レテ_レ相_レ統_レ人_レヲ_レシ_レテ

此_レニ_レ個_レノ_レ義_レ務_レノ_レ一_レヲ_レ免_レカ_レレ_レム_レル_レニ_レ付_レキ_レ取_レ結

シ_レタル_レ契_レ約_レニ_レ基_レテ_レ用_レタ_レリ

遺_レ產_レ義_レ務_レ部_レ分_レ推_レ判_レ者_レノ_レ若_レシ_レ遺_レ產_レノ_レ檢_レ出_レヲ_レ担_レ任

ス_レル_レ中_レノ_レ遺_レ產_レ義_レ務_レ部_レ分_レニ_レ制_レ限_レセ_レラ_レレ_レタル_レ可_レシ

トスル遺産者ノ年令ハ亦用ヲ有ス

第九百八十九條 左ニ掲ケタルモノハ遺産

義務部分請求額ニ付キ之ヲ減算ス可シ

第一 遺産者カ遺産義務部分推利者ニ左ノ

註若條件即チ贈與者カ被贈與者ニ先之チ

ニ死亡シ又ハ被贈與者ヨリ長生セザル可

シトスル設若條件付ニテ為シタル贈與ニ

シテ轉讓ニ依リ執行セラレタルモノ

第二 遺産者ノ遺産義務部分推利ニ為レタ

ル贈與ニシテ其奉行ノ際遺産者カ遺産前

後部分ニ付キ減算ス可シト年令シタルモノ

第三 若シ遺産義務部分推利者カ遺産者ノ

子孫ナレバハ遺産者ノ遺産義務部分推利

者ニ為シタルモノ第九百五十八條ニ掲ケタ

ル種類ノ贈與但遺産者カ其贈與ノ際遺産

義務部分ニ付キ減算ノ果成ヌ可カラスト

年シタルニ非ザルハ度ニ限ル

若シ遺産者カ前項等ニ号等三号ニ掲ケタル贈

與ノ際左ノ年令即チ此贈與ニ相續部分ニ算入

ス可シ若クハ其入ス可ラス又ハ補充ニ供ス可
シ若クハ供ス可ラスト原存シタル中疑ヒノ存
スルニ於テハ遺産義務部分ニ付テハ減算ニ依
果成ス可シ又ハ果成ス可ラスト推認セラル可
減算セラル可キ債額ハ贈与ノ目的物カ贈与ノ
當時ニ於テ有シタル債額ニ依リテ定マレ
若シ遺産義務部分推利者カ遺産者ノ子孫ナル
中ハ第ニ千百六十一條ヲ準用シ又其他ノ子孫
ニシテ遺産者ヨリ長生シタルニ非スシテ遺産

義務部分推利者ヲ法律上遺産相続ヨリ推定シ
タル可カリシ者ニ當リタル贈与ニ関シテハ
第ニ千百六十條ノ成規ヲ準用ス
第千九百九十條 第千九百九十九條ニ依リ遺
産義務部分請求額ニ付テ減算セラル可キ額ハ
遺産義務部分ノ定メニ依リテハ遺産ノ債額ハ
加算セラル可シ
若シ遺産義務部分推利者カ遺産者ノ子孫ナル
中ハ遺産義務部分ノ定メニ當リテハ遺産相続
ニ依リテタル他ノ子孫カ遺産義務部分推利者ニ

對ノ第千九百五十七條乃至第千九百六十四條ノ成規ニ依リ補充ニ供ス可カリモノモル遺産ノ價額ニ加算ス可シ

第千九百九十一條 普通財産共通又ハ所得共通又ハ動財産ト所得トノ共通ノ場合ニ於テ其合同財産ノ計内ヲ以テ及ヒ普通財産共通ノ継続ノ場合ニ於テ其継続セラレタル財産共通ノ同時財産ノ計内ヲ以テ一方ナル配偶者ノ共同若クハ雙方ノ子孫又ハ配偶者等ノ一方ノ隻親ニ當テレタル贈与ニ関レテハ第千九百六十二

條ノ成規ヲ準用ス

第千九百九十二條 遺産相続部分請求権ハ遺産相続部分推利者ノ若クハ法律ニ依リ相続ノ場合ト共ニ起生ス

遺産相続部分ハ相続セラレ又ハ轉讓セラレ、了ラ得遺産相続部分請求権ハ若クハ遺産相続部分推利者カ既ニ裁判所ニ於テ又ハ裁判所外ニ於テ之ヲ行使シタル時ニ限り遺産相続部分推利者ニ對スル強制執行又ハ假差押ノ手續ニ於テ實ニ限又ハ此請求権ハ遺産相続部分推利者

ノ財産ニ付テ、破産ノ場合ニ於テハ、單ニ右同
一ノ豫定條件ニ於テ、破産財團ニ屬ス
第千九百九十三條 若シ相続人カ贈遺又ハ年
金義務ヲ以テ負担セシメラレタルハ、其相続
人ニ遺産者カ別段ノ事項ヲ規定シタルニ非テ
ハ限リ、其執行ヲ左ノ程度即チ其相続人ニ於
テ遺産義務部分負担、遺産義務ノ扣除、後表
頭スル遺産ノ價額ト贈遺及ヒ年金義務ノ價額
トノ割合ニ應シテ、ミ負担スル程度ニ於テ拒
却スルコトヲ得

第千九百九十四條 二人以上ノ相続人等ハ自
己ノ相続部分ノ割合ニ應シテ遺産義務部分請
求ニ付キ其責ニ任ス遺産者ハ相続人等ノ相互
ニ於ケル割合ニ付テ、其責任ノ種類ヲ定ムル
コトヲ得
第千九百九十五條 若シ遺産義務部分権利者
ノ遺産相続ヨリ除付セラレタルノ結果ニ於テ
他人カ法律上相続ト告リタルハ、此他人ハこ
人以上ノ相続人等ノ相互ニ於ケル割合ニテ被
除付者ノ遺産義務部分請求権ヨリ生ズル負担

ヲ担当ス可ク又若シ被除年者カ贈遺ヲ以テ供
給セラレタル中ニ於テ贈遺ヲモ示得タル利益ノ
額ニ於テ担当ス可シ

第千九百九十六條 若シ遺產義務部分推判者
ノ者メ贈遺ノ辞退ニ依リ又ニ法律上遺產相続
ニ遺準シテ帰属シタル遺產ノ辞退ニ依リ遺產
義務部分請求推ノ創起シタル中ニ二人以上ノ
相続人等ノ相互ニ於ケル割合及ヒ贈遺收受等ノ相互
收受人トシテ於ケル割合及ヒ贈遺收受等ノ相互
間ニ於ケル割合ニ於テ遺產義務部分負担ニ辭

退ニ依リ利益ヲ受ケル者カ其得タル利益ノ額
ニテ之ヲ負担ス可シ

若シ此ノ如キ場合ニ於テ其辞退セラレタル贈
寄又ニ遺產カ贈遺又ニ年示義務ヲ以テ責務ヲ
負担セシメラレタル中ニ辞退ニ依リ利益ヲ受
ケル者カ其負担シタル責務ニ付テハ辞退者カ
責ヲ負ヒタルト同一ノ程度ニ於テ義務ヲ負フ
モ單ニ遺產義務部分請求推ヲ排除シタル後亦
在スルモノ、額ニ止マレ

第千九百九十七條 相続人ノ第千九百九十三

件ニ照準シテ贈遺及ヒ年々義務ノ執行ヲ拒却
スル推利ノ相続人ニ於テ第千九百九十五條第
千九百九十六條ノ成規ニ依リ遺產義務部分負
担ヲ担当シタルニ依リ度ニ限リ準年セラ
ル
第千九百九十八條 第千九百九十五條乃至第
千九百九十七條ノ成規ニ遺產者ニ於テ別段ノ
事項ヲ規定シタル中ニ一之ヲ適用セズ
第千九百九十九條 遺產義務部分請求推利ニ
年ノ満了ヲ以テ時効ニ罹ル此時効ニ遺產義務

部分推利者ノ相続ノ場合ノ開始及ヒ自己ノ遺
産義務部分推利ノ依リテ害セラレタル如ク
謝知シタル時点ヲ以テ始マル
時効期間ニ相続ノ場合ノ開始ヨリ起算シ三十
年ヲリトス但請求推カ前項ニ遡準シ既ニ此三
十年以前ニ時効ニ罹リタルニ依リテ限リ
時効ニ請求推カ遺產又ニ贈遺ノ辭退後始メテ
行使セラルルコトヲ得ルモ之カ告メ停止セラレ
ス
第千九百九十九條 遺產者ニ更ニ第千九百九十九條乃至第千二

四五條：掲ケタル場合：限リ遺産義務部分推
判者、其遺産義務部分、收受ス可ラス又、單
ニ一分ノミ又、單ニ制限若ク、責務ヲ以テ、
ニ收受ス可レトスル年迄（遺産義務部分ノ取得）
ヲ出スノ権利ヲ有ス此取得、單ニ之ヲ正者十
リトスル事由ノ既ニ年令ノ當時存立セレハ、
ノミ許サレ

第二十一條 遺産者、左ノ場合ニ於テ、其子
孫ニ對シ遺産義務部分ヲ取得スル了ヲ得
第一 若シ子孫カ遺産者ノ生年又、此ノ子

孫ノ生年又、遺産者ノ配偶者ノ生年ヲ構
成セシト爲レタル時

第二 若シ子孫カ故意ニ出テ遺産者又、其
配偶者ノ身體ニ對シテ殊行ヲ加ヘタルノ
責ヲ作爲シタル時但此配偶者、子孫ノ母
関ノ隻親又、隻方ノ親祖タルモノニ限ル
第三 若シ子孫カ良心ニ反シテ官廳ニ告訴
シテ重罪又、軽罪ヲ犯シタルノ責ヲ遺産
者又、其配偶者ニ歸スル時
第四 若シ子孫カ刑事又、懲戒事件ヲ犯シ

故意ニ生テ遺産者又ニ其配偶者ノ害ノ害
メ証人又ニ鑑定人トナリテ遺言ノ責ヲ自
己ニ作爲シタル時

第五 若シ子孫カ遺産者ノ配偶者ト破婚ノ
責ヲ自己ニ作爲シタル時

第六 若シ子孫カ自己ヨリ遺産者ニ其ノ可
キ給養ヲ故意ニテ與ヘタル時

第七 若シ子孫カ第四百三十八條第四百
三十九條ニ依リ心算ナシ遺産者ノ同意無
クシテ増減ヲ結成シタル時

第四百二條 若シ子孫カ浪費者タルノ品行有
リ又ニ浪費者タルノ事務執行有ルニ依リ本人
自己及ヒ其家族ヲ急迫ノ情況ニ陥ラシメシト
スルノ虞懼ヲ生スルニ正当ナル事由有ル時又
ハ子孫カ遺産義務部分ヲモ滅セ自己ノ財産ヲ
以テ債権者ニ弁償ヲ爲スニ足ラサルカ如クニ
債務ヲ負ヒタル時ハ遺産者ハ其子孫ニ相続人
トシテケクニ相続部分ノ二分一ヲ遺留スル限
リニ其遺留シタル相続部分ニ関シ其子孫ノ死
亡後ノ時間ノ内ニ其法律上相続人ヲ後嗣相続

人トシテ設定レ且同時ニ女子孫ニ後嗣相続人
ニ對シ担保債行爲ヲ果成ス可シトノ年令ヲ當
ス丁ヲ得

右ノ子孫ニ先嗣相続人トシテ屬スル推利ニ
第千二百九十八條及ヒ第千二百九十九條第一
項第三項ノ成規ヲ準用ス但第千二百九十九條
第一項第一項ノ成規ニ單ニ緊要缺ク可ラザル
給養ノニニ關スルノ制限ヲ以テ之ヲ準用ス
後嗣相続ノ年令ニ若シ之ヲ當スニ正當ナル事
由カ相続ノ場合ノ當時既ニ存レタルニ非ザル

ハニ無作用タリ

第千十三條 遺產者ニ其父又ニ其母カ若シ第
二千一十一條第一號第三號乃至第六號ニ掲ケタル
行爲ノ一個ノ罪ヲ治告レタル中ニ之ニ對シ遺
產義務部分ヲ取奪スル丁ヲ得

第千十四條 若シ遺產者カ第千一十一條第千
三條ノ成規ニ依リ遺產義務部分ノ取奪ヲ當ス
ニ正當ナル事由タル行爲ヲ宥恕スル中ニ其取
奪ノ宥恕ヲ當ス前既ニ果成レタル中ト雖モ
作用タリ

第ニ千五條 遺産者、若シ第千四百四十一條
乃至第千四百四十五條ニ違背シテ離婚ヲ求メ
又ハ寢食別異ヲ求ムル遺産者ノ因リテ生ズル
行告ノ責ヲ其配偶者カ作告シタル中、其配偶
者ニ對シ遺産義務部分ヲ取奪スルコトヲ得
其取奪、若シ相続ノ場合ノ當時ニ於テ遺産者
ノ右ノ推利カ既ニ成立セルニ非ザル中、其作
用タリ

第ニ千六條 遺産義務部分ノ取奪、本期意思如
分ニ因リテ果成ス

第ニ千七條 遺産義務部分ノ取奪、單ニ之ヲ
告スニ正当ナル事由ヲ明示シテ果成スル中、
ノミ作用ヲ生ス

第ニ千八條 遺産義務部分ノ取奪ヲ辯脱スル
爲メ遺産者ノ明示シタル事由ノ証明、其取奪
ヲ主張スル者ノ責ニ帰ス

第ニ千九條 若シ遺産者カ遺産義務部分推利
者ノ既ニ存在シテ遺産義務部分推利ヲ禁ヘラ
レシ當時又ハ一人若クハ二人以上ノ他人ノ虧
缺シタル結果ニ於テ遺産義務部分推利ヲ禁ヘ

ラ、トヲ得レ當時ニ於テ遺産義務部分権利
者ニ非サル他人ニ贈與ヲ爲シタル中ニ其遺
産者ニ贈與ノ果成シタルニ非サル可カリシハ
ノ如クニ遺産義務部分ヲ遺留スルトテ受テ若
シ消資物カ贈與セラレタルハ其物カ贈與ノ
當時ニ於テ有セシ債額カ遺産内ニ尚ホ存在セ
リト看做サレ可シ

右贈與ノ當時ニ於テ既に結成シタル方式上有
効ナル遺産者ノ増減ニ依リテ分系レ又ニ其贈
與ノ當時ニ於テ既に存在シタル遺産者ノ子孫

ヨリ分系シタル子孫モ亦右贈與ノ當時既に存
在シタル當時ニ於テ遺産義務部分権利ヲ與ヘラ
レタリト看做ス然レモ此法規ニ贈與ノ當時ニ
於テ相続推抽象ニ依リ遺産相続ヨリ除年セラ
レタル子孫ノ子孫ニ一モ之ヲ適用セス

第ニ千十條 第ニ千九條ニ依リテ生ズル遺産
義務部分ノ増加(格外ノ遺産義務部分)ニ法律
ニ別段ノ事項ヲ規定シタルニ非サレ限り、遺
産義務部分ニ関スル法規ヲ準用ス

第ニ千十一條 格外ノ遺産義務部分ニ係ル請

求権、遺産義務部分推判者、法律上相続ノ二
分一カ遺留セラレタル中ニモ、其推判者、屬
ス右請求権、若シ此二分一ヨリ過分ノ額カ遺
産義務部分推判者ニ遺留セラレタル中、其過
分ニ遺留セラレタルモノ、全額債額ノ達スル
限度ニ於テ準付セラル

等二千十二條 若シ遺產者カ既ニ第千九百八
十九條ノ成規ニ依リ遺産義務部分請求額ニ付
キ減算セラル可ラサル贈與、遺産義務部分推
判者ニ爲シタル中、其贈與ノ目的、等三者ニ

爲サレタル贈與ノ目的物ト同一ノ性質ニ於テ
遺産ニ加算セラル可シ然レモ遺産カ此加算ニ
依リテ増加シタル分量ノ全額額、格外ノ遺産
義務部分ニ付テ減算セラル可シ
若シ遺産義務部分推判者カ遺產者ノ子孫ナル
中、等二千百六十一條ノ成規ヲ準用シ又遺産
者ヨリ長生シタルニ依スシテ遺産義務部分推
判者ヲ法律上ノ遺産相続ヨリ除外シタル可カ
リシ池ノ子孫ニ爲サレタル贈與ニ関シテ、等
二千百六十條ノ成規ヲ準用ス

第二千十三條 相続人、格外ノ遺産義務部分
ニ係ル請求権ノ弁償ニ付テノ責任ハ單ニ其相
続人ニ帰屬スル相続部分ニシテ相続人カ遺産
相続ニ付テノ遺産者ノ年令ノ欠缺スルニ因リ
收受シタルニ非カシ可カリシモノ又ハ遺産義
務部分推判者ニ於テ遺産義務部分請求権ヲ創
起スル遺産ノ辞退ヲ害シタルニ因リ收受シタ
ルモノニ関シテノ之ヲ負担スルモノトスニ
人以上ノ相続人ハ相続部分ニシテ之ニ付キ自
己ニ義務ヲ負担シタルモノ、割合ニ應シテ責

任ヲ負担ス
第二千十四條 相続人カ格外ノ遺産義務部分
ニ係ル請求権ノ弁償ニ付キ責任ヲ負担セズ特
ニ自己ニ屬スル遺産目錄推ノ結果ニ於テ責任
ヲ負担セサルハ度ニ限リ被贈與者ハ遺産義務
部分推判者ニ對シ格外ノ遺産義務部分ニ係ル
該推判者ノ請求権ニ付キ義務ヲ負フ遺産義務
部分推判者カ單独相続人ナルハ亦前段同一
ナリトス

第二千十五條 格外ノ遺産義務部分ニ係ル請

於推ノ弁償ニ付テハ以後ノ被贈與者ハ以前ノ
被贈與者ニ先キ之ヲ責任ヲ負担シ又以前ノ
被贈與者ハ以後ノ被贈與者ノ義務ヲ負ハサル
分度ニ限リ責任ヲ負担ス

第二千十六條 遺産義務部分推利者ハ被贈與
者ニ對シテハ單ニ格外ノ遺産義務部分ニ係
ル請求權ニ付テハ辨償ノ為メ贈與物ノ呈出
ノミヲ求ムルヲ得但其呈出カ此辨償ノ為
メ必要ナル分度ニ限ル
被贈與者ノ呈出義務ニハ第七百三十七條第

第二千十六條 遺産義務部分推利者ハ被贈與
者ニ對シテハ單ニ格外ノ遺産義務部分ニ係ル
請求權ニ付テハ弁償ノ為メ贈與物ノ呈出ノミ
ヲ求ムルヲ得但其呈出カ此弁償ノ為メ必要
ナル分度ニ限ル

被贈與者ノ呈出義務ニハ第七百三十七條第
三項及ヒ第七百三十九條第七百四十條ノ成規ヲ
準用シ是ニ被贈與者カ自己ニ對スル請求權ノ
依リテ定マル豫定條件ノ存ニタルヲ識知シ
タル時ヨリハ亦第七百四十一條第二項ノ成規

ヲモ準用ス

第二十七條 若シ普通ノ財産共通又ハ所得
共通又ハ動財産ト所得トノ共通ノ場合ニ於テ
合同財産ノ計内ヲ以テ贈與カ為サレタルハ
此贈與ハ格外ノ遺産義務部分ニ関シテハ配偶
者等ノ各自ヨリ二分一宛為サレタリトト看做
ス然レモ此贈與ハ若シ配偶者等ノ一人ノ一方
限りノ子孫又ハ隻親又ハ一方限りノ隻親祖ニ
果成セラレタルハ此配偶者ヨリ為サレタリ
ト看做ス又若シ配偶者ノ一方カ贈與ニ依リテ

合同財産ニ付キ補充ノ義務ヲ負ヒタルハ補
充義務ヲ負ヒタル配偶者ヨリ為サレタリト看
做ス

前項ノ成規ハ若シ贈與カ普通財産共通ノ繼續
ノ場合ニ於テ其繼續セラレタル財産共通ノ合
同財産ノ計内ヲ以テ為サレタルハ之ヲ準用
ス

第二十八條 第二十九條乃至第二十七條
ノ諸成規ハ徳義上ノ義務ニ依リ又ハ風紀上ノ
斟酌ニ依リ正當ナリト為ラレ、贈與ニハ一モ

適用セス

第五章 相續権拋棄

第二十九條 遺産者ハ遺産者ノ血屬者若クハ配偶者ノ間ニ取結セラル可キ契約ニ依リテ其血屬者又ハ配偶者ハ法律上ノ遺産相續ヨリ除外セラル。トテ得相續権拋棄契約
 何人タリモ法律上ノ遺産相續ヨリ除外セラルタル者ハ一モ遺産義務部分権利ヲ有セス
 相續権拋棄契約ハ遺産義務部分権利ノ除外ノニ制限セラル。トテ得

第二十二條 相續権拋棄契約ニ在リテハ第千九百四十三條、第千九百四十四條、第千九百四十七條ノ成規ヲ準用シ、并ニ遺産者ニ関シテハ右契約ニ第千九百十一條、第千九百十二條ノ成規ヲ準用シ、及ヒ他ノ一方ナル結約者ニ関シテハ右契約ニハ第千九百五十七條第三項ノ成規ヲ準用ス
 相續権拋棄ノ依リテ廢棄セラル、契約ニモ亦第千九百四十三條、第千九百四十四條、第千九百四十七條ヲ準用シ、遺産者ニ関シテハ右契約ニ

亦第千九百十一條、第千九百十二條ノ成規ヲ準
用ス

第千二十條 相續人設定契約又ハ贈遺契約
ハ之ヲ相續権拋棄契約ト併合スルコトヲ得相續
権拋棄契約ニモ亦第千九百五十五條及ヒ第千
九百五十六條第一項ノ成規ヲ準用ス

第千二十二條 相續権拋棄契約ニ於テ單ニ
一定ノ人ノ利益ノ為メニハ遺産相續権ノ拋
棄セラレタル場合ニ在テ疑ヒノ存スルニ於テ
ハ其拋棄ハ右ノ人カ遺産相續ニ指定セラレス

又ハ遺産相續ヲ辞退シ又ハ相續失格ノ宣告ヲ
受ケタル中無作用ト為ル可ト推定セラレ可
シ

第千二十三條 若シ相續権拋棄ノ結果ニ於
テ拋棄者ノ子孫カ代承相續ヲ為ス中ハ其拋棄
ノ為メ與ヘラレタル反對債行為ハ若シ拋棄者
ノ子孫カ法律上ノ遺産相續ヲ為スニ至ル中ハ
第千六百六十三條、第千一百六十四條ニ照準
シ共同相續人ニ對シテ之ヲ填補ニ供ス可シ若
シ拋棄者ノ子孫ニ遺産義務部分請求権ノ屬ス

ル中ハ第千九百八十九條、第千九百九十條ニ照
準シテ此子孫ノ遺産義務部分請求額ニ付テ之
ヲ算入ス可シ填補又ハ算入ハ二人以上ノ子孫
ノ相續部分又ハ遺産義務部分ニ在リテハ系派
ニ準シテ果成ス第千二百六十二條ノ成規ハ之
ヲ準用ス

第千二十四條 何人タリモ契約ニ依リ相終
人トシテ設定セラレ又ハ贈遺ヲ以テ供給セラ
レタル者ハ遺産者ト取結セラル可キ契約ニ依
リ何時タリモ贈寄ヲ拋棄スルコトヲ得此契約ニ

ハ第千二十條、第千二十一條ノ成規ヲ準用ス

第五章 相續人ノ法律上位置

第一節 遺産ノ取得

第千二十五條 遺産者ノ因死処分ニ依リ又
ハ法律ニ依リテ相續人ナリト指定セラレタル
者ノ上ニ遺産ノ移轉ハ辞退ノ權利ヲ留保シ法
律ニ依リテ果成ス(遺産ノ歸屬)

遺産ノ歸屬ハ法律カ別段ノ事項ヲ規定シタル
ニ非サル限りハ相續ノ場合ト共ニ果成ス

第千二十六條 相續ノ場合ノ後ニ出生シタ

ルモ相續ノ場合ノ當時ニ於テ既ニ受妊セラレ
タル者ハ遺産ノ歸屬ニ関シテハ相續ノ場合ノ
前既ニ出生シタリト看做ス
前項ノ成規ハ後嗣相續ニ関シテハ後嗣相續ノ
場合カ相續ノ場合ニ代ハルノ制限ヲ以テ之ヲ
準用ス

第百二十七條 若シ相續ノ場合又ハ後嗣相
續ノ場合ノ當時ニ於テ存在シタル懷妊ノ結果
ニ於テ相續権ヲ有スル者ノ出生スルト有ル中
ハ其妊婦ハ給養資ヲ需要スル限度ニ於テ懷妊

ノ時間ノ為メ遺産ノ計内ヨリ身分ニ相應スル
給養資ノ供與ヲ求ムルノ請求権ヲ有ス又若シ
尚ホ他ノ人カ相續ナリトシテ指定セラレタル
中ハ未タ出生セサル者カ其出生ノ場合ニ於テ
單獨ニ指定セラレ又ハ他人ト共同ニテ指定セ
ラレタル相續部分ノ計内ヨリ右同一ノ請求権
ヲ有ス
妊婦ノ給養資需要ハ第百八十一條ノ成規
ニ依リテ定マル

第百二十八條 相續人ハ自己ニ歸屬スル遺

産ヲ辞退スルヲ得

若シ相續人カ尚ホ辞退スルノ権利ヲ有スル間

ニ於テ死亡スル中ハ此相續人ノ相續人ハ遺産

者ニ帰属セシ遺産ヲ辞退スルヲ得

此相續人ノ二人以上ノ相續人ノ各相續人ハ各

自ノ相續部分ニ相當スル遺産ノ部分ヲ辞退ス

ルノ権利ヲ有ス

第百二十九條 遺産ヲ辞退スルノ権利ハ

相續人タラント欲スル旨ノ明示又ハ黙示ノ陳

述ニ依リ并ニ法律上定メラレタル期間内ニ辞

退スル旨ヲ陳述セサルニ依リテ消滅ス(遺産ノ

諾受)

第百三十條 遺産ノ辞退ハ六週ノ期間内ニ

果成スルトヲ要ス此期間ハ若シ相續人カ期間

ノ起始ノ際外國滞在スル中又ハ遺産者カ其最

終ノ住所ヲ單ニ外國ニ於テノ有シタル中ハ

六月ナリトス

此期間ハ相續人カ遺産ノ自己ニ帰属シタル

ヲ識知シ又ハ如何ナル事由ニ依リ其帰属ノ果

成シタルヤヲ識知シタル時點ヲ以テ始マル然

レ氏相續人指定カ遺產者ノ因死処分ニ根基ニ
又ハ第千九百四十五條ノ成規ニ依リ言渡ヲ要
スル相續人設定契約ニ根基スル中ハ其処分又
ハ契約ノ言渡前ニハ始マラサルモノトス
第百六十四條第百六十六條ノ成規ハ之ヲ準用
ス
第千三十一條 若シ相續人カ辞退期間ノ満
了前ニ死亡スル中ハ此期間ハ其相續人ノ遺產
辞退ノ為メ定メラレタル期間ノ滿了前ニハ満
了セザルモノトス

第千三十二條 遺產ノ辞退ハ遺產裁判所ニ
對シ公認ヲ得タル方式ニ於テ之ヲ陳述スル
ヲ要ス相續人ノ全權代理者ハ此陳述ヲ為スニ
ハ之カ為メ公認ヲ得タル方式ニ於テセル特別
ノ全權ヲ授與セラレ、一ヲ要ス全權ハ之ヲ其
陳述ニ添附シ又ハ辞退期間内ニ追補スル一ヲ
要ス
第千三十三條 遺產ハ法律カ別段ノ事項ヲ
規定シタルニ非サル限りハ辞退期間ノ始マル
前ニハ之ヲ諾受スル一ヲ得ス又之ヲ辞退スル

トヲ得ス

第二十三十四條 若シ遺產義務部分權利者カ
相續人トシテ制限セラレ又ハ責務ヲ負擔セシ
メラレ又ハ遺產義務部分請求權ヲ以テ負擔ヲ
設定セラレタル中ハ 辭退期間ハ遺產義務部分
權利者カ其制限責務又ハ負擔ヲ識知シタル後
始メテ始マルモノトス

若シ遺產義務部分權利者カ單ニ補充相續人ト
シテノミ設定セラレタル中ハ其權利者ハ未タ
之ニ遺產歸屬ノ果成シタルニ非ナル中ト虽相

續ノ場合ノ後遺產ヲ辭退スルトヲ得

第二十三十五條 設若條件又ハ期限設定ヲ附
加シテ為シタル遺產ノ諾受又ハ辭退ハ無作用
タリ

第二十三十六條 遺產又ハ同一ナル相續部分
ノ諾受又ハ辭退ハ之ヲ具一分ニ限ルトヲ得ス

第二十三十七條 若シ二個以上ノ相續部分ノ
為メ同一ノ相續人ノ指定セラレタル場合ニ於
テ其一個ノ相續部分カ諾受セラレ又ハ辭退セ

ラル、其ハ縦令其他ノ部分カ以後ニ至リ始メ
テ帰属スルモ相續人指定カ同一ノ原由ニ根基
スル限リハ其他ノ部分モ亦諾受セラレ又ハ辞
退セラレタリト看做サル可ニ相續人指定カ各
異ノ原由ニ根基スル限リハ其各個ノ相續部分
ハ独立ニテ諾受又ハ辞退ニ服ス相續設定契約
未期意思処分及ヒ法律ハ之ヲ各異ノ指定原由
ト看做ス然レモ各異ノ相續設定契約又ハ末期
意思処分ハ此限ニ在ラス
前項ノ成規ハ若シ遺產者カ別段ノ意思ヲ有シ

タルトノ判然スル片ハ一モ之ヲ適用セス
第二十三十八條 何人タリモ末期意思処分ニ
依リ又ハ契約ニ依リテ遺產相續ニ指定セラレ
タル者ハ遺產ヲ設定セラレタル相續人トシテ
辞退ニ及ヒ法律上相續人トシテ諾受スルトラ
得
何人タリモ契約ニ依リ及ヒ末期意思処分ニ依
リ相續人トシテ設定セラレタル者ハ遺產ヲ契
約ニ依リテ辞退ニ及ヒ末期意思処分ニ依リテ
諾受ニ并ニ末期意思処分ニ依リテ辞退ニ及ヒ

契約ニ依リテ諾受スルヲ得

若シ相續人カ第一項及ヒ第ニ項ニ適準ニテ他
ノ指定原由ニ依リ遺産ヲ諾受スルノ權利ヲ有
スルハ其相續人ハ同一ノ陳述ニ依リ總テノ
指定原由ニ関シテ遺産ヲ辞退スルヲ得疑ヒ
ノ存スル場合ニ在テハ其陳述ハ總テノ原由ニ
関ス可ト推認セララル可シ

第ニ項三十九條。遺産ノ諾受又ハ辞退ハ之ヲ
取消スルヲ得ス

第ニ項四十條

遺産義務部分權利者ハ若シ自

己ニ負ハシメラレタル制限責務又ハ遺産義務
部分負擔カ辞退前ニ虧缺ニタル場合ニ於テ辞
退ノ當時其虧缺ノ自己ニ知レタルニ非サルハ
ハ辞退陳述ヲ抗争スルヲ得

前項ノ場合ニ於ケル辞退陳述ノ抗争并ニ脅迫
又ハ詐欺ニ依レル辞退陳述ノ抗争ハ第ニ項三
十二條ニ定メタル方式ニ於テ遺産裁判所ニ對
シ與フ可キ陳述ニ依リテ果成ス遺産裁判所ハ
此陳述ヲ抗争者ノ代ハリニ遺産ノ歸屬ニタル
者ニ通知ス可シ

抗争ハ辞退期間ト同一ナル六週又ハ六月ノ期間内ニ果成スルヲ要ス

此期ハ第一項ノ場合ニ在テハ抗争権利者カ制限又ハ責務ヲ識知シタル時点ヲ以テ始マリ脅迫又ハ詐欺ニ依レル抗争ノ場合ニ在テハ脅迫ノ情况ノ絶止ニ又ハ詐欺ノ発露シタル時点ヲ以テ始マル

抗争ノ為メノ期間ハ辞退ノ陳述ヲ與ヘタル時点ヨリ起算シ三十年トス但抗争カ第三項及ヒ第四項ニ適準シ此三十年以前ニ於テ既ニ除斥

セラレタルニ非ナル中ニ限ル

第百六十四條、第百六十六條ノ成規ハ之ヲ準用ス

第二十四十一條 脅迫又ハ詐欺ニ依レル諾受陳述ノ抗争ハ辞退ニ関シ法律上定メラレタル期間及ヒ方式ニ於テ辞退ト併合シテ遺産裁判所ニ對シ果成スルヲ要ス

第二十四十二條 若シ遺産ノ辞退セラレ、中ハ辞退者ニ係ル帰属ハ果成シタル非スト看做ス

辞退セラレタル遺産ハ若シ辞退者カ遺産者ヨ
リ長生シタルニ非サル可カリニナラハ相續人
ニ指定セラレタル可カリニ者ニ歸屬ス辞退者
ノ代ハリニ指定セラレタル者ニ係ル歸屬ハ相
續ノ場合ト共ニ果成ニタリト看做ス遺産裁判
所ハ辞退ノ結果ニ於テ遺産ノ歸屬スル者ニ辞
退ヲ告知ス可シ

第二十四十三條 若シ相續人トシテ指定セラ
レタル者カ父母ノ権力又ハ後見ノ下ニ立ツキ
ハ遺産ヲ辞退スルニハ後見裁判所ノ認諾カ必

要ナリトス

第二十四十四條 若シ遺産カ辞退ノ結果ニ於
テ辞産者ノ父母ノ権力ノ下ニ立ツ者ニ歸屬ス
ル中ハ父母ノ権力ノ所持者カ其子ノ為メニ遺
産ヲ辞退スル陳述ニハ後見裁判所ノ認諾ハ必
要ナラス此ノ如キ場合ニ於テモ亦同一ノ陳述
ニ依リ二個ノ辞退ヲ果成スルヲ得
第ニ一項第一段ノ成規ハ若シ辞退スル父母ノ権
力ノ所持者カ其子ト共ニ共同相續人トシテ指
定セラレタル中ハ一モ之ヲ適用セス

第ニ節 相續失格

第ニ千四十五條 左ニ掲クル者ハ相續失格ナ
リトス

第ニ 何人タリテ故意ニ出テ違法ノ行為ニ
依リテ遺産者ヲ殺死シ又ハ其死亡ニ至ル
マテ遺産ヲシテ末期意思処分ヲ作成スル
ノ無能カト為ラシメシ現状ニ陥ラシメタ
ル者

第ニ 何人タリテ故意ニ出テ違法ノ行為ニ
依リテ遺産者ニ對シ因死処分ノ作成又ハ

廢罷ヲ妨ケタル者

第ニ 何人タリテ遺産者ヲシテ脅迫又ハ詐
期ニ依リ違法ニ因死処分ヲ為スニ至ラシ
メタル者

第ニ 何人タリテ遺産者ノ因死処分ニ関シ
刑法第ニ百六十七條乃至第ニ百七十四條
ノ成規ニ依リ罰セラル可キ行為ノ責ヲ作
為シタル者

第ニ千四十六條 相續失格者ニ係ル遺産ノ歸
屬ハ之ヲ抗争スルヲ得

抗争ハ帰属ノ後始メテ之ヲ為スルヲ許サル然
レ氏後嗣相續人ノ失格ノ場合ニ於テハ抗争ハ
相續ノ場合ノ開始後ニ至レハ縱令後嗣相續人
ニ遺産ノ帰属スル前ト虽既ニ之ヲ果成スル
ヲ得

抗争ノ権利ハ若シ相續失格者カ遺産者ヨリ長
生シタルニ非ナル可カリニナラハ相續人タル
可カリシ者カ之ヲ有ス

抗争ハ一年ノ期間内ニ果成スルヲ要ス此期
間ハ抗争権利者カ抗争ノ起生スル為メ必要ナ

ル事實ヲ識知シタル時点ヲ以テ始マル

抗争ノ為メノ期間ハ遺産カ相續失格者ニ帰属
シタル時点ヨリ起算シ三十年トス但抗争カ第
四項ニ適準シテ此三十年以前ニ於テ既ニ除斥
セラレタルニ非ナル片ニ限ル

第百六十四條、第百六十六條ノ成規ハ之ヲ準用
ス

第百二十四、二十七條 抗争ハ相續失格ノ宣告ヲ求
ムル訴ノ提起ニ依リテ果成ス又抗争ハ相續人
カ相續失格ナリト宣告セラレ、判決ノ確定ト

共ニ始メテ作用ヲ有ス

第ニ千四十八條 相續失格ノ宣告ノ場合ニ於

テハ第ニ千四條第ニ一項第ニ段第ニ段ヲ

準用ス

抗爭者ハ遺産ヲ辞退スルコトヲ得ス

第ニ千四十九條 相續失格者ニハ遺産義務部

分請求權ハ屬セラルモノトス

第ニ千五十條 相續失格ハ若シ遺産者カ第ニ

千四十五條ノ成規ニ依リ相續失格ノ結果ヲ致

ス行為ヲ宥恕シタル中ハ之ヲ相續失格ト推認

スルコトヲ得ス

第ニ三節 遺産取得ノ作用

第ニ千五十一條 遺産者ノ財産ニ屬スル權利

及ヒ遺産者ノ財産權上ノ義務ハ遺産者ノ死亡

ト共ニ消滅セラル限リハ法律ニ依リテ相續人

ニ移轉ス若シ二人以上ノ相續人カ存在スル中

ハ各個ノ權利及ヒ義務ハ法律ニ依リ其相續部

分ノ割合ニ應ジテ相續人等ニ移轉ス

第ニ千五十二條 遺産ニ屬スル物ノ占有及ヒ

所持ハ法律ニ依リ相續人ニ移轉セス

第二十五十三條 物ニ関シテ遺產者ニ對シ又ハ遺產者ヨリ犯サレタル禁止ノ專横ニ因リ生ズル權利及ヒ義務ハ遺產者ニ移轉ス

第二十五十四條 若シ第三者カ遺產者ノ死亡ノ際其占有又ハ所持ニ存セシ物ニ関シ其相續人カ占有者又ハ所持者ト為リタル以前ニ於テ若シ占有又ハ所持カ相續ノ場合ト共ニ相續人ニ移轉シタル可カリシナラハ禁止ノ專横タル可カリシ行為ヲ舉行シタル中又ハ若シ第三者カ此ノ如キ物ノ占有者クハ所持ヲ相續人ニ先

キ立テ取得シタル中ハ相續人ハ遺產者ニ對シ自ヒカ相續ノ場合ト共ニ物ノ占有者又ハ所持者ト為リタル可カリシ中ニ於ケルト同一ノ權利ヲ有ス

第二十五十五條 相續人ハ遺產者ノ身分ニ相應スル埋葬費ヲ担當スルノ義務ヲ負フ
第二十五十六條 遺產ニ係ル事務ヲ担當シ以後ニ至リテ遺產ヲ辞退スル相續人ト其辞退ノ結果ニ於テ相續人ト為ル者トノ間ニ於ケル關係ニ在リテハ右ノ事務ニ関シテハ無委任業務

執行ニ関スル成規ヲ準用ス

若シ遺産ヲ諾受スル前相續人ヨリ遺産ニ屬スル目的物カ轉讓セラレ若クハ負担ヲ設定セラレ又ハ遺産上權利ノ変更ヲ直接ニ目的トスル權利行為カ尙三者ニ對シテ舉行セラレ若クハ尙三者ト取結セラレ又ハ相續人ニ對シ權利行為トシテ舉行セラレ可キ權利行為カ尙三者ヨリ相續人ニ對シテ舉行セラレ、殊ニ相續人ニ債行為トシテ其權利ニ屬スル債行為カ相續人ニ果成セラレ、中ハ其權利行為ノ作用ハ以

後ニ至リ相續ヲ辞退スルモ之カ為メ変更セラレ、ト無シ

第二十五十七條 遺産ノ諾受前ニハ相續人ハ遺産者ト尙三者トノ間ニ於テ權利拘束ト為リタル争訟ヲ繼續ニ又ハ相續人ニ對シ其資格ニ於テ提起セラレ、争訟ヲ引受クルノ義務ヲ負ハス相續人ニ對シ其資格ニ於テ起サレタル請求ノ為メニスル強制執行及ヒ假差押執行ハ遺産ノ諾受ニハ単ニ遺産ニ對スル強制執行及ヒ假差押執行ハ遺産ノ諾受前ニハ之ヲ為ス

許サズ

第百四節 遺産裁判所ノ幹當

第百五十八條 若シ相續人ノ知レサル中又ハ殊ニ相續人カ不在ナルノ故ヲ以テ又ハ相續人カ行為能力ヲ有セス若クハ行為能力ヲ制限セラレタルモ尚ホ代理セラレタルニ非ズ若クハ代理人カ不在ナルノ故ヲ以テ相續人カ遺産ヲ幹當スル能ハサル中ハ遺産裁判所ハ職権ヲ以テ需求上ニ於テ必要ナル分度ニ限り遺産ノ保全ニ付キ幹當ス可シ殊ニ遺産裁判所ハ封印

ノ押捺金銭高價物及ヒ有價証券ノ供託並ニ遺産目録ノ調製ヲ命ス可シ

若シ遺囑者ノ存在スル中ハ遺産裁判所ハ遺囑執行者カ遺産者ノ命令ニ依リ幹當ノ為メ指定セラレタル限度ニ於テ之ニ遺産ニ付テノ幹當ヲ委付ス可シ

第百五十九條 若シ相續人ノ知レサル中相續人タル可キ者ニ對シ管理人ノ任定セラレ可キ程度ハ第百四十二條ノ成規ニ依リテ定マル(遺産管理人)

遺產管理人ハ若シ遺產債権者カ指定セラレタ
ル相續人ニ於テ遺產ヲ諾受スル前遺產ノ計内
ヨリ弁償ヲ要求シ遺產者カ其弁償ノ為メ幹當
セサルホニモ亦申立有ル中ハ相續人タル可キ
者ニ對シ任定セララル可シ

第二十六十條 遺產管理ニハ第二十六十一條
乃至第二十六十六條・於テ別段ノ事項ヲ規定
シタルニ非サル限りハ財産管理ニ付テノ成規
ヲ準用ス

第二十六十一條 遺產裁判所ハ遺產管理ニ関

シテハ後見裁判所ノ權利及ヒ義務ヲ有ス

第二十六十二條 遺產管理人ニ對シテハ相續
人ニ對シ其資格ニ於テ求ム可キ総テノ請求權
ヲ行使スルヲ得但し其請求權カ相續人ノ一身
ニ繫ラシメラレタル義務ニ関スル中ハ此限ニ
在ラス

第二十六十三條 相續人ノ遺產目錄權ハ遺產
管理人ノ為セル拋棄ニ依リテモ又遺產管理人
ニ對シテ定メラレタル遺產目錄權期間ノ懈怠
ニ依リテモ又其権力訴訟ニ於テ遺產管理人ヨ

リ行使セラレタルニ非ス若クハ遺産管理人ニ
對シテ發下サレタル判決ニ於テ尚保セラレタ
ルニ非サルモ尚ホ除斥セラレス

第ニ千六十四條 遺産管理人ハ遺産債権者ノ
公催告ノ發下ヲ求メ及ヒ遺産ニ付テノ破産ノ
開始ヲ求ムル申立ヲ為スノ權利ヲ有ス

第ニ千六十五條 若シ遺産カ遺産債権者ノ完
全ナル弁償ヲ為スニ足ラサルハ遺産管理人
ハ相續人ニ對シ遺産債権者ノ一人ニテモ遺産
目録権ニ関スル成規ニ依リ要求スルノ權利ヲ

有スルヨリモ尚ホ過大ノ範圍ニ於テ遺産ノ計
内ヨリ弁償セラレサルトニ付キ幹當スルノ義
務ヲ負フ

遺産管理人ハ遺産債権者ニ對シ遺産ノ成立ニ
付キ報告ヲ為スノ義務ヲ負フ

第ニ千六十六條 第ニ千五十九條第ニ一項ニ適
準シテ命セラレタル遺産管理ハ相續人カ檢出
セラレタル場合ニ於テ遺産カ相續人ヨリ諾受
セラレタル中始メテ廢罷セラル可シ
第ニ千六十七條 若シ相續人カ知レサル中場

合ノ情況ニ適當スル期間内ニ檢出セラレサル
ニ於テハ遺産裁判所ハ職権ヲ以テ相續権ノ届
出ヲ為サシムル為メ其届出期間ヲ定メテ公催
告ヲ發ス可シ

公告ノ方法及ヒ届出期間ノ長短ハ訴訟法第
百二十五條乃至第百二十七條ノ成規ニ依リ
テ定マル

何人タリモ届出期間ノ滿了前又ハ後ニ於テ相
續権ヲ請求スル者ハ届出期間ノ滿了後三月内
ニ遺産裁判所ニヒレノ相續人タル可キト又ハ

ヒレノ相續権ヲ國庫ニ對シ訴ヲ起シテ行使シ
タル可キトヲ証明ス可シ

若シ相續権ノ届出ノ果成シタルニ非ス又ハ相
續権ノ届出ノ場合ニ於テ一モ届出無キトニ關
シ三月ノ期間内ニ第ニ項ニ掲ケタル証明ノ為
サレタルニ非サル中ハ遺産裁判所ハ職権ヲ以
テ國庫ノ外別ニ相續人ノ存セラルト及ヒ申立
ニ依リ相續証書ヲ國庫ニ交付ス可キトヲ確定
ス可シ

第五節 相續証書

第百二十六條 遺產裁判所ハ法律上相續人ニ付シ其申立ニ依リ申立人カ法律上遺產相續ニ因於ニ相續人タルト及ヒ其相續人タル範圍ニ付シ証状ヲ交付ス可シ(相續証書)

第百二十九條 申立人ハ相續証書ノ交付ヲ求ムル申立ヲ辯明スル為メ左ニ掲クル各事項ヲ明示ス可シ

第百一 遺產者ノ死亡并ニ其死亡ノ果成シタル時

第百二 申立人ノ相續権カ依リテ創起セラル

、關係

第百三 申立人ノ相續権カ依リテ除斥セラレ又ハ滅殺セラレ可カリシ人ノ現ニ存スルヤ又ハ曾テ存シタリシヤ否及ヒ如何ナル人ノ現ニ存スルヤ又ハ曾テ存シタリシヤ及ヒ當該場合ノ相續権

第百四 此ノ如キ人カ如何ナル方法ニ於テ虧缺ニタルヤ

第百五 遺產者ノ因死処分ノ存スルヤ否及ヒ如何ナル処分ナルヤ

第六 申立人ノ主張スル相續権ニ付テノ争訟ノ権利拘束ト為ラサル

第二十七十條 申立人ハ第二十九條第一号、第二号、第四号ニ掲ケタル明示ノ正確ナルヲ証明スル為メ之ニ関スル事實ノ遺産裁判所ニ公然知レタルニ非サル分度ニ限り公証書ヲ呈出ス可シ又若シ此ノ如キ証書ヲ得ル能ハス又ハ別段ノ困難ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ得ル能ハサル中ハ他ノ証拠物ヲ明示ス可シ申立人ハ第二十九條、第三号、第五号、第六号

ニ掲ケタル明示ニ関シテハ裁判所又ハ公証人ノ前ニ於テ自己ノ明示ノ正確ニ對シ反抗スルモノハ一モ識知セサル下ノ宣誓上保確ヲ與フ可シ裁判所ハ特別ナル情況ニ依リ宣誓上保確ヲ免除スル下ヲ得

第二十七十一條 遺産裁判所ハ単ニ申立人ノ相續権ヲ自ラ信証ニタル中ニミ相續証書ヲ交付ス可シ又裁判所ハ職権ヲ以テ申立人ノ明示ニタル証拠物ヲ利用シテ事實ヲ確定スル為メ必要ナル檢出ヲ果成シ及ヒ適切ナリト認ム

ル証状ヲ採用ス可シ

相續証書ハ相續権ニ関スル争訟ノ権利拘束ト
為リタル間之ヲ交付ス可カラス

第二十七十二條 遺産裁判所ハ相續証書ノ交
付前第二十六十七條第ニ照準ニテ
他人ニ属スル相續権ノ届出ノ為メ公催告ヲ發
ス可シ

第二十七十三條 遺産裁判所ハ相續証書ヲ交
付シタル後ト虽職権ヲ以テ其証書ノ正確ナル
トニ付テノ検出ヲ舉行スルヲ得若シ遺産裁

判所ハ相續証書ノ不正ナルトノ信証ヲ得タル
中ハ職権ヲ以テ其証書ヲ没収ス可シ又若シ其
証書ヲ即時ニ收得スルヲ得サル中ハ決議ヲ以
テ無効宣告ヲ為ス可シ此決議ハ民事争訟ニ於
テ呼出状ノ公送達ニ関スル現行ノ成規ニ依リ
告知ス可シ無効宣告ハ公告誌ニ決議ノ最終ノ
記載以来一月ノ滿了ヲ以テ作用ヲ有スルモノ
ト為ル

第二十七十四條 眞実ノ相續人ハ不正ナル相
續証書ノ各所持者ニ對シ此証書ヲ遺産裁判所

ニ呈出ス可キヲ求ムルノ請求権ヲ有ス
不正ナル証書ノ交付ヲ受ケタル者ハ眞実ノ相
續人ニ對シ遺產ニ屬スル目的物及ヒ其残余ニ
付キ報告ヲ為スノ義務ヲ負フ

新ナル相續証書ハ以前交付セラレタル不正ノ
相續証書カ還納セラレ又ハ無効宣告ヲ受ケタ
ル後始メテ之ヲ眞実ノ相續人ニ交付ス可シ
第二十七十五條 若シ先嗣相續人ニ相續証書
カ交付セラレ、中ハ其証書ニ於テ相續人ハ單
ニ先嗣相續人ニ止マルト又何レノ豫定條件ニ

テ後嗣相續ノ開始ス可キヤ及何人カ後嗣相續
人ナルヤヲ明示ス可シ

若シ遺產者カ遺囑執行者ヲ指名シタル中ハ其
指名ハ之ヲ相續証書ニ明示ス可シ

第二十七十四條 第廿一項ノ成規ハ後嗣相續人及
ヒ遺囑執行者ノ利益ノ為メ之ヲ準用ス

第二十七十六條 相續証書ニ相續人トシテ記
載セラレタル者ハ其証書ニ明示セラレタル範
圍ニ於テ及ヒ其証書ニ明示セラレタル制限ヨ
リ他ニ一モ制限ヲ受クル無クニテ相續人タル

可ニト推定セラル

第二十七十七條 若シ相續証書カ交付セラレ
タル後及ヒ此証書カ不正ナル為メ遺產裁判所
ニ還納セラレシ若クハ遺產裁判所ヨリ無効ノ宣
告ヲ受ケタル前ニ於テ其相續証書ニ相續人ト
シテ記載セラレタル者ヨリ遺產ニ屬スル目的
物カ轉讓セラレシ若クハ負担ヲ設定セラレシ若ク
ハ遺產上權利ノ變更ヲ直接ニ目的トスル權利
行為カ第三者ニ對シテ舉行セラレシ若クハ取結
セラレシ又ハ相續人ニ對シテ舉行セララル可キ權

利行為カ第三者ヨリ相續証書ニ相續人トシテ
記載セラレタル者ニ對シテ舉行セララル、其殊
ニ相續人ノ收受ス可キ權利ニ屬スル債行為カ
相續証書ニ相續人トシテ記載セラレタル者ニ
果成セララル、其ハ相續証書ノ含旨ハ第二十七
十六條ニ掲ケタル推定ノ届ク限りハ第三者ノ
利益ノ為メ之ヲ正當ナリト看做ス
前項ノ成規ハ若シ權利行為ノ舉行ノ當時ニ於
テ第三者カ事實即チ之ニ依リテ眞実ノ權利現
狀ト相續証書トノ一致セサルトノ表顯スル事

実ヲ識知シ又ハ相續証書カ不正ナル為メ遺産
裁判所ヨリ取戻要求ヲ為サレタルトヲ識知シ
タル中ハ一モ之ヲ適用セズ

第百七十八條 遺産裁判所ハ遺産者ノ因死
処分ニ依リ設定セラレタル相續人ノ申立ニ依
リ之ニ對シテ申立人ヨリ其相續権ノ辯明ノ為
メ主張シタル処分ニ對シテ反抗スル遺産者ノ
因死処分ノ存セサルトニ付テノ証言書ヲ交付
ス可シ

若シ遺産者ノ因死処分ニ依リ相續人カ設定セ
ラレタル相續人ノ申立ニ依リ之ニ對シ申立人
ハ因死処分ニ記載セラレタルトニ付キ又若シ
二人以上ノ人カ同一ノ方法ニ於テ合同ニテ設
定セラレタル中ハ何レノ範圍ニ於テ申立人カ
設定セラレタルヤニ付キ証言書ヲ交付ス可シ
第百七十九條 第百七十八條ノ規定ニ關シテ
ハ第百六十九條乃至第百七十七條ノ成規
ヲ準用ス
第百七十九條 内國ノ地所又ハ内國ノ地所
ニ付テノ權利又ハ其他ノ權利即チ權利者其人

ニ係ル変更ヲ登記スル為ノ独逸官廳ノ保管内
ニ在ル目的物カ独逸裁判所ノ何レニテモ遺産
裁判所タルノ権限ヲ有セサル遺産ニ属スル片
ハ此ノ如キ遺産ニ属スル目的物ニ関シテハ相
續証書ハ独逸裁判所ニ於テ之ヲ交付ス可シ若
シ地所又ハ地所ニ付テノ權利カ目的物ナル片
ハ其地所ノ所在地ヲ管轄スル遺産裁判所カ権
限ヲ有シ其他ノ場合ニ在テハ臺帳若クハ簿冊
ヲ備ヘ又ハ目的物ヲ保管スル官廳カ其居所ヲ
有スル地ヲ管轄スル遺産裁判所カ権限ヲ有ス

第二十六十八條乃至第二十七十七條及ヒ第
二十七十八條第ニ項第ニ項ノ成規ハ之ヲ準用ス

第ニ節 遺產請求權

第二十八十條 相續人ハ某人即チ其請求シタ
ル相續權ニ根基ニテ相續人ニ對シ遺產ノ目的
物ヲ冒有スル者遺產占有者ニ對シ遺產ノ呈出
ヲ請求スルノ権ヲ有ス(遺產請求權)

第二十八十一條 左ニ掲クルモノモ亦第二十
八十條ニ謂ヘル遺產ノ目的物ナリト看做ス

第ニ 遺產者ノ死亡ノ當時ニ於テ遺產者ノ

占有又ハ所持内ニ存ニタル物

第ニ 遺産ニ属スル権利ニ根基ニテ取得セラレ又ハ遺産ノ目的物ノ潰滅毀損又ハ取奪ニ付テノ賠償トシテ相續人ニ取得セラレタル目的物

第ニ 権利行為ノ相續人ニ對ニテ作用ヲ有スルモノ又ハ相續人ヨリ詭諾セララル、モノニ限り遺産占有者遺産又ハ遺産ノ目的物ニ關スル権利行為ニ依リ殊ニ債行為ノ諾受ニ依リ取得ニタル目的物然レモ此成

規ハ若シ権利行為カ遺産ニ属スル消費物ニ關スル中ハ一モ之ヲ適用セズ

第ニ 總テノ遺産目的物ノ果益殊ニ物ノ果益此果益ハ第ニ号ニ掲ケタル目的物ニ属セサル分度ノモノト虽モ亦同シ

第ニ 十八十二條 遺産占有者ハ相續人ニ對シ遺産ニ属スル目的物及ヒ其残留物ニ付テノ報告ヲ為スノ義務ヲ負

第ニ 十八十三條 遺産占有者カ呈出ヲ為スル能ハサル限度ニ於テ第ニ七百三十九條第ニ七百四

十條 第 一 項 及 ヒ 第 七 百 四 十 一 條 第 二 項 ノ 成 規
ヲ 準 用 ス

第 二 十 八 十 四 條 遺 産 占 有 者 ハ 単ニ 総テ ノ 支
用 ノ 賠 償 ヲ 受 ケ テ ノ ミ 呈 出 ス ル ノ 義 務 ヲ 負 フ
支 用 ト 看 做 ス 可 キ ハ 殊ニ 遺 産 義 務 ノ 銷 却 ナリ
ト ス

第 二 十 八 十 五 條 遺 産 占 有 者 カ 相 續 人ニ 非 カ
ル 一 ヲ 識 知 シ タ ル 時 点 ヨリ 又 此 識 知 ヲ 権 利 拘
束 前ニ 得 タ ルニ 非 カ ル 限リ ハ 遺 産 請 求 ノ 権 利
拘 束 ノ 開 始 ヨリ 果 益 ノ 呈 出 及 ヒ 賠 償ニ 関シ 支

用 ノ 賠 償ニ 関シ 并ニ 維 持 及 ヒ 保 管ニ 付 テ ノ 責
任ニ 関シ テ ハ 所 有 者ト 占 有 者ト ノ 間ニ 於 ケル
権 利 関 係ニ 関シ テ 所 有 權 請 求 ノ 権 利 拘 束 ノ 開
始 ヨリ 適 用 ス ル 成 規 ヲ 準 用 ス

第 二 十 八 十 六 條 第 九 百 三 十 四 條 第 九 百 三 十 五
條 ノ 成 規 ハ 遺 産 請 求 權ニ 之 ヲ 準 用 ス

第 二 十 八 十 七 條 支 用 ノ 賠 償ニ 関シ テ モ 又 利
殖 ノ 存 否ニ 係ル 判 定ニ 関シ テ モ 遺 産 ハ 之 ヲ 全
團 ナリ ト 觀 察 ス

第 二 十 八 十 八 條 若シ 相 續 人 カ 遺 産 占 有 者ト

リトシテ請求セラル、ヲ得ル者ニ對シ各個ノ
遺産目的物ニ関シ自巳ニ屬スル各別ノ請求權
ヲ行使スル中ハ遺産占有者ハ自巳ノ義務ヲ遺
産請求權ニ関スル現行ノ成規ニ照準シテ判定
セラル可キヲ求ムルヲ得

第百八十九條 若シ死亡宣告ヲ受ケタル人
ハ死亡宣告ノ時点ヲ起ヘテ尚ホ生存シタル中
又ハ死亡宣告ニ依リテ果成シタル判決カ抗爭
訴ノ結果ニ於テ廢罷セラレタル中ハ第百二十七
十四條ノ成規ヲ準用シ及ヒ死亡宣告ヲ受ケタ

ル人ノ財産ノ呈出ニ係ル請求權ニ関シテハ遺
産請求權ニ関スル現行ノ成規ニ第百八十
八條ノ成規ヲ準ス

死亡宣告ヲ受クル無クシテ死亡シタリト看做
サレタル人カ其相續ニ関シテ死亡ノ時ナリト
推認セラレタル時ヲ起ヘテ生存シタル中ハ前
項ト同一ナリトス

第百九十條 若シ死亡ノ宣告ヲ受ケタル人
カ死亡宣告ノ時点ヲ起ヘテ生存シ又ハ此時点
ノ前ニ於テ死亡シタル中ハ此人カ死亡宣告ノ

當時死亡シタル可カリシナラハ其相續人タル
可カリシ者ハ相續人證書ノ交付ヲ受クル無シ
ト虽モ第百二十七條ニ掲ケタル權利行為ニ
関シテハ第百三者ノ為メ之ヲ相續人ト看做ス此
成規ハ若シ第百三者カ權利行為ノ奉行ノ當時ニ
於テ想定上遺産者ノ死亡宣告ヲ超ヘテ存生シ
若クハ死亡宣告ノ前ニ於テ死亡シタルト又ハ
死亡宣告ノ抗爭訴ノ結果ニ於テ廢罷セラレタ
ルトヲ識知シタル中ハ一モ之ヲ通用セス
第百二十九條 若シ相續人設定カ抗爭セラ

ルトヲ得可キ場合ニ於テ其抗爭ノ果成シタル
中ハ設定セラレタル相續人ハ其抗爭前自己ノ
奉行シ又ハ自己ニ對シテ奉行セラレタル第百
二十七條ニ掲ケタル權利行為ニ関シテハ第
百三者ノ為メ之ヲ相續人ト看做ス但第百三者カ權
利行為ノ奉行ノ當時ニ於テ相續人設定ノ抗爭
セラレ、ヲ得可キトヲ識知シタル中ハ此限ニ
在ラス

第百七節 遺産目錄権

第百九十二條 相續人ハ遺産カ総テノ遺産

義務ヲ弁償スルニ足ラサルハ無キ事由ノ存
スル中ハ相續人トシテ其負担スル義務(遺産義
務)ノ履行ヲ第二十九十三條乃至第百五十
條ニ照準シテ拒却スルヲ得(遺産目録権)
遺産義務ト看做サル可キハ既ニ遺産者ノ一身
ニ生シタル義務ノ外尚ホ以後ニ至リ成立シタ
ル相續人其資格ニ於テ負担セル義務殊ニ贈遺
命示義務及ヒ遺産義務部分ヨリ生シタル義務
並ニ遺囑執行者又ハ遺産管理人ノ奉行シタル
権利行為ヨリ生シタル義務ナリトス

第二十九十三條 遺産目録権ハ相續人ニ屬ス
可カラストスル遺産者ノ命令及ヒ遺産者ト相
續人トノ間ニ取結シタル契約ニシテ之ニ依リ
相續人カ遺産目録権ヲ行使セサルノ義務ヲ負
フモノハ無作用タリ
第二十九十四條 遺産目録権ハ総テノ遺産債
権者ニ對シ拋棄ニ依リテ消滅ス
此拋棄ハ遺産裁判所ニ對シ公認ヲ得タル方式
ニ於テ之ヲ陳述スルヲ要ス相續人ノ全権代
理者ハ此陳述ヲ為スニハ公認ヲ得タル方式ニ

於テ之カ為メ與ヘラレタル特別ノ全権ヲ受ク
ルヲ要ス此全権ハ之ヲ陳述ニ附加スルヲ
要ス

設若條件又ハ期間設定ヲ附シタル拋棄ハ無作
用タリ

拋棄ハ之ヲ取消スルヲ得ス

脅迫又ハ詐欺ニ依ル拋棄ノ抗争ハ公認ヲ得タ
ル方式ニ於テ遺産裁判所ニ對シテ與フ可キ陳
述ニ依リテ果成ス遺産裁判所ハ民事争訟ニ於
ケル呼出ノ公送達ニ関スル現行ノ成規ニ依リ

テ其陳述ヲ告知ス可シ

第二十三十三條、第二十四十三條ノ成規ハ拋棄
ニ之ヲ準用ス

第二十九十五條 遺産目録権ハ若シ相續人カ

遺産裁判所ニ於テ之ニ對シ定ム可キ期間(遺産

目録期間)内ニ遺産ノ成立ニ付テノ目録(遺産目

録)ヲ遺産裁判所ニ差出(遺産目録作成)サ、ル片

ハ總テノ遺産債権者ニ對シテ消滅ス但其差出

カ此期間前既ニ果成シタル片ハ此限ニ在ラス

遺産ニ付テノ破産ノ開始後ハ遺産目録権ハ遺

産目録期間ノ懈怠ニ依リ消滅スルト無シ
第二十九十六條 遺産目録期間ノ指定ハ自己
ノ請求権ヲ疏明シタル遺産債権者ノ申立ニ依
リテ果成ス此期間指定ハ申立人カ遺産債権者
ニ非サルモ之カ為メ無作用ト為ルト無シ
第二十九十七條 遺産目録期間ハ少クモ一月
多クモ三月タル可シ此期間ハ相續人ニ期間指
定ヲ掲クルノ決議ノ送達ヲ以テ始マルモノト
ス又此期間ハ相續人ノ申立ニ依リ遺産裁判所
ノ見込ヲ以テ之ヲ延長スルトヲ得

期間指定ハ未タ遺産ノ諾受前ト虽モ之ヲ果成
スルトヲ得遺産ノ諾受前ニ指定シタル期間ハ
此諾受前ニハ始マラサルモノトス
第二十九十八條 若シ相續人カ遺産目録期間
ノ滿了前遺産目録ヲ作成スルト又ハ情况ニ依
リ正当ナル期間ノ延長ヲ申立ルトヲ不可抗力
ニ依リ妨碍セラレタル中ハ其相續人ノ申立ニ
依リ之ニ對シ遺産裁判所ハ新ナル遺産目録期
間ヲ指定スルトヲ得又若シ相續人カ期間指定
ヲ掲ケタル決議ノ送達ヲ自己ノ過失ニ出ル無

クミテ一モ識知シタルニ非ナルハ前段ト同
一ナリトス

新ナル期間ノ指定ヲ求ムル申立ハ二週ノ期間
内ニ之ヲ為ス₁ヲ要ス此二週ノ期間ハ妨碍ノ
止ミタル時点ヲ以テ始マルモノトス此申立ニ
付テノ裁定前遺産債権者ニシテ其申立ニ依リ
最初ノ期間ヲ指定セシメタル者ハ訊問ヲ受ク
可キモノトス

最初ニ指定セラレタル期間ノ終了ヨリ起算ニ
一年ノ満了ノ後ハ新ナル遺産目録期間ヲ求ム

ル申立ハ之ヲ為ス₁ヲ許サス

第百二十九條 若シ相續人カ遺産目録期間
ノ満了前又ハ第百二十八條第百二十九條第
百二十八條ノ期間ノ満了前ニ死亡シタルハ此
二個ノ期間ノ満了ハ相續人ノ遺産ノ辞退ノ為
メ規定シタル期間ノ満了前ニハ開始セズ
第百二十九條 遺産目録期間ノ經過ニ第百二十
九條第百二十九條第百二十九條ノ期間ノ開
始及ヒ經過ニハ第百六十四條第百六十六條ノ
成規ヲ準用ス

第百二十一條 若し相続人カ父母ノ権力ノ下
又ハ後見ノ下ニ立ツ中ハ遺産裁判所ハ遺産目
録期間ノ指定ヲ職権ヲ以テ後見裁判所ニ遅延
無ク通知ス可シ

第百二十二條 遺産目録ハ権限ヲ有スル官廳
又ハ権限ヲ有スル官吏ニ於テ之ヲ作成スル
ヲ要ス

第百二十三條 相続人ノ申立ニ依リ遺産裁判
所ハ各邦法律ニ依リ自己ニ権限ヲ有スル限リ
ハ遺産目録ヲ自ら作成シ又ハ権限ヲ有スル官

廳若シハ権限ヲ有スル官吏ニ其作成ヲ囑託ス
可シ相続人ハ此ノ如キ場合ニ在テハ遺産目録
ノ作成ノ為メ必要ナル報告ヲ為スノ義務ヲ負
フ遺産目録期間ハ申立ヲ為スニ依リテ指定セ
ラル、モノトス遺産裁判所ノ自ら作成シタル
遺産目録ノ特別ナル差出ハ之ヲ為サス遺産裁
判所ノ命令ニ依リテ他ノ官廳又ハ官吏ノ作成
シタル遺産目録ハ此官廳又ハ官吏ヨリ相続人
ノ為メ遺産裁判所ニ差出サレ、モノトス
第百二十四條 若し第百二十二條第百三

條ノ成規ニ相當スル遺産目録カ既ニ遺産裁判
所ニ存スル中ハ遺産目録ノ作成ハ相續人ノ遺
産裁判所ニ對シテ與フ可キ左ノ陳述即チ其既
ニ存スル遺産目録ハ相續人ヨリ差出シタルモ
ノナリト看做サル可シトスル陳述ニ依リテ果
成スルヲ得

第百二十五條 遺産目録ニハ相續ノ場合ノ開
始ノ當時ニ於テ存在スル遺産ノ目的物モ遺産
ノ義務モ共ニ完全ニ明示ス可シ
遺産目録ニハ右ノ外遺産ノ目的物ノ明細書カ

其價額ヲ定ムル為ノ必要ナル分度ニ限り其明
細書并ニ價額其モノ、明示ヲ包含ス可シ
第百二十六條 遺産目録権ハ若シ相續人カ遺
産債権者ニ損害ヲ加フルノ故意ニ出テ遺産ノ
目的物ヲ遺産目録ニ掲載セサル中ハ總テノ遺
産債権者ニ對シテ消滅ス
若シ前項ノ場合ノ存スル中ニテ遺産目録ノ
不完全カ確定セラル、中ハ遺産裁判所ハ申立
ニ依リ相續人ニ對シテ補全ノ為メノ期間ヲ定
ムルヲ得此期間ニハ遺産目録期間ニ関スル

第百二十九條乃至第百一十一條ノ成規ヲ準
用ス

第百七十七條 遺産裁判所ハ何人タリモ法律
上ノ利益ヲ説明スル者ニハ作成シタル遺産目
録ノ展覧ヲ許ス可シ

第百八十八條 若シ遺産目録権ハ遺産債権者ニ
對シ契約ニ依リ又ハ其目録権カ訴訟ニ於テ相
續人ヨリ行使セラレタルニ非ス若クハ判決ニ
於テ留保セラレタルニ非ス若クハ扣除ノ抗辯
ニ付テノ争訟ニ於テ非存ノ宣告ヲ受ケタルニ

依リ除外セラレタル中ハ其除外ハ単ニ右債権
者ニ對シテノミ作用ヲ有ス

第百九十九條 若シ遺産目録権カ第百二十九
條乃至第百六十六條ニ適準シテ
消滅シタル中ハ遺産ニ付テノ破産ノ開始ハ第
百五十五條乃至第百一十條ノ成規ヲ害スル
無クシテ之ヲ為スルヲ許サス

第百一十條 若シ遺産ニ付キ破産ノ開始セ
ラル、中ハ遺産債権者ハ第百十八條ノ成
規ヲ害スル無クシテ自己ノ債権ヲ單ニ破産

於テノミ行使ニ及ヒ相續ノ場合ノ開始後遺產
ニ對シテ果成ニタル強制執行又ハ假差押執行
ノ処分ニ依リ特別ニ為サレタルニ非サル弁償
ノミヲ求ムルヲ得此ノ如キ場合ニ於テハ遺
産ニ屬セサル相續人ノ財産ニ對シテ果成ニタ
ル強制執行又ハ假差押執行ノ処分モ亦廢罷セ
ラル

前項ノ成規ハ若シ遺產目錄権カ債権者ニ對シ
第ニ千一百八條ニ依リテ除斥セラレ又ハ第ニ
千九十四條第ニ千九十五條第ニ千百六條ニ依

リテ消滅ニタル片ハ一モ之ヲ適用セス

第ニ千百十一條 遺產ノ目的物ニ付キ相續人
ノ処分ハ遺產ニ付テノ破産ノ開始ニ依リ無作
用ト為ルヲ無シ

第ニ千百十二條 遺產ニ付テノ破産ノ開始後
ニ於テハ相續人ノ遺產諾受前ニ相當ニタル遺
産ニ係ル業務ニ関シ相續人ト破産財團トノ間
ニ於ケル關係ニハ無委任業務執行ニ関スル成
規ヲ準用ス遺產ヲ諾受ニタル後ノ時間ニ在テ
ハ相續人ハ破産財團ニ對シテハ遺產ノ管理ヲ

以テ委任セラレタル可カリコトノ如クニ義務ヲ負ヒ及ヒ權利ヲ有ス然レモ相續人ハ自己ノ反對債權ノ為メ留置權ヲ有スル無クシテ遺産ヲ破産財團ニ呈出ス可シ若シ遺産又ハ贈遺カ破産ノ開始セラレタル遺産ニ属スル場合ニ於テ相續人カ其遺産又ハ贈遺ヲ辞退スルハ其責任ハ此ノ如キ辞退ニモ亦擴及ス
第百二十三條 遺産ニ付テノ破産ニ於テハ破産法第百五十二條ニ掲ケタル義務ノ外尚ホ左ニ掲クル義務モ亦之ヲ財團債務ト看做ス

第百二十二條 第百十二條第百一十條ニ照準シテ相續人ニ對シ破産財團ノ負担スル義務

第百二十一條 遺産ノ裁判上担保遺産ノ管理遺産目録ノ作成及ヒ遺産債權者ノ公催告ニ依リ并ニ遺産者ノ因死処分ノ開始ニ依リ成立シタル費用ニ係ル義務

第百二十條 遺囑執行者又ハ遺產管理者ノ奉行シタル權利行為ニ依リ生シタル義務

第百十九條 遺囑執行者又ハ遺產管理者又ハ遺產

ヲ辞退シタル相續人ニ對シ此者等ノ業務
執行ニ依リ相續人ノ負担セル義務

第五 遺產者ノ身分ニ相應セル埋葬費ニ係
ル義務

第百十四條 遺產ニ付テノ破産ノ開始ト
共ニ相續ノ場合ノ結果ニ於テ併合ニ依リ消滅
シタル債務上義務ハ之ヲ消滅シタルニ非ト看
做ニ相續ノ場合ノ結果ニ於テ併合ニ依リ絶止
セラレタル物又ハ權利ニ付テノ權利ハ之ヲ絶
止シタルニ非スト看做ス必要ナル場合ニ於テ

ハ此ノ如キ權利ハ之ヲ恢復ス可シ

第百十五條 相續人ハ遺產ニ付テノ破産

ニ於テ遺產者ニ對シ自己ノ有スル請求權ヲ行
使スルヲ得

相續人ハ自己ノ弁済シタル遺產義務ニ関シテ

ハ其弁済ヲ受ケタル債權者ニ代ハル者ニ相續

人カ遺產目録権ノ喪失ニ依リ又ハ扣除ノ抗辯

ニ関スル確定裁決ニ依リ遺產債權者ノ債權ニ

関シ一身上ノ請求ヲ受クルト無シトセザル片

ハ其相續人ハ債權者カ此債權ヲ行使セザル場

合ノ為ノ破産ニ於テ行使スルノ権利ヲ有ス
第百二十六條 若シ遺產債権者カ遺產ニ付
テノ破産ノ開始前ニ於テ相續人ノ自己ニ對シ
テ有スル債権ノ遺產ニ屬セサルモノニ對シ自
己ノ債権ノ相殺ヲ相續人ノ承諾無クシテ陳述
シタルハ此陳述ハ破産ノ開始後ニ於テ果成
シタルニ非サルモノト看做サル可シ
第百二十七條 遺產ニ付テノ破産ニ於テハ
總テノ遺產義務カ主張セラル、トテ得
然レモ左ニ掲クル債権ハ他ノ總テノ破産債権

ノ後始メテ左ノ列次ニ於テ弁償セラレ又同列
ニ在リテハ其額ノ割合ニ應ジテ弁償セラル
第一 破産法ノ成規ニ依リ破産債権者タル
債権者ノ債権ノ利息ニシテ破産開始以來
生殖スルモノ
第二 遺產者ニ對シテ宣告セラレタル罰金
及ニ遺產者ノ贈與ヨリ生スル債権
第三 遺產ノ計内ヨリ遺產義務部分ノ供与
ニ係ル債権
第四 遺產者ノ贈遺及ヒ命示義務ヨリ生ス

ル債権遺産者ハ因死処分ヲ以テ或ル贈遺
又ハ命示義務ハ他ノ贈遺又ハ他ノ命示義
務ニ對シ優先ノ列位ヲ有ス可シト命スル
ヲ得

第百五十七條乃至第百六十四條ニ照準シ遺産者ノ子孫ニ屬スル債権
即チ先收物ニ付テノ補充ニ係ル債権

破産ノ開始マテニ生殖シタル利息及ヒ破産ノ
開始以來生殖スル利息ハ同一ノ列位ヲ以テ第
一號乃至第百五十七號ニ掲ケタル債権ニ算加ス

遺産者ノ挙行シ又ハ遺産者ニ對シテ挙行セラ
レタル権利行為ノ抗爭ノ結果ニ於テ破産財團
ニ還與セラレ、モノハ第百三號乃至第百五十七號ニ掲
ケタル債権ノ弁償ノ為メ之ヲ支用スルヲ許
サス第百二號乃至第百五十七號ニ掲ケタル債権ノ債権
者等ハ強制和解ノ取結ニ関與セス然レモ此債
権者等ハ破産裁判所ニ於テ其和解ヲ認可スル
前訊問セラレ可シ若シ此債権者等ノ一債権者
力異議ヲ述フルハ其認可ハ果成スルヲ得
ス